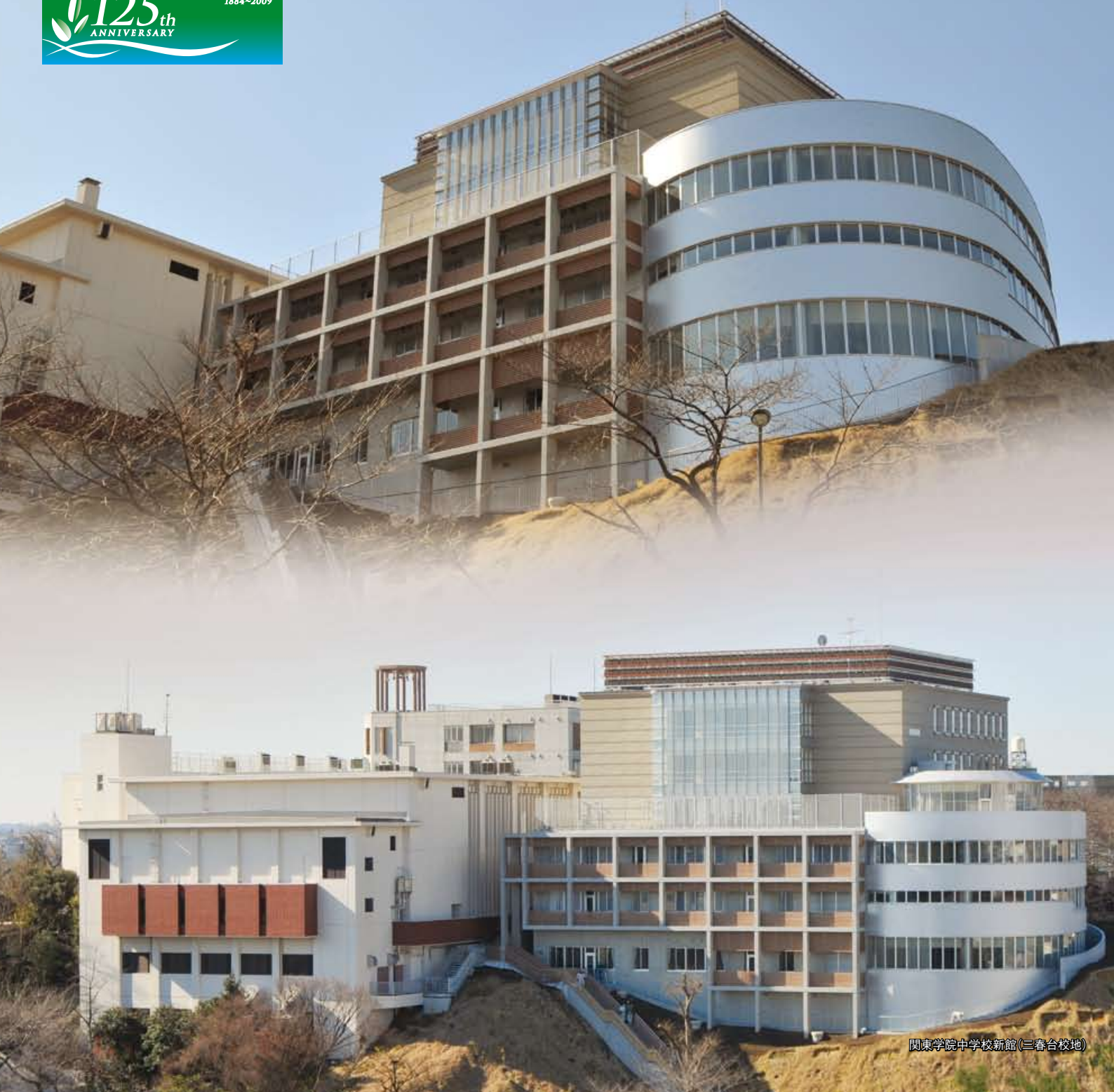


# 関東学院 学報

KANTO GAKUIN NEWS No. 35 2008.3



# 「法科大学院の取り組み」新司法試験9名合格

関東学院大学専門職大学院法務研究科長 松原 哲

昨年5月、全国の法科大学院修了者を対象に、4日間にわたって司法試験が実施され、9月に1851名の合格が発表されました。受験者総数4607名、合格率は40.18%です。関東学院大学法科大学院からは23名が受験し、短答式試験に14名が合格、最終合格者は9名という成績をおさめました。合格者数は、県内では横浜国立大学法科大学院に次いで2位、全国68校の法科大学院のなかでは37位という結果です（いうまでもなく、合格者数上位校は、定員1学年200名をこえる大規模校です。本学の定員は、30名です）。また、合格率は39.1%で県内1位、全国でも九州大学法科大学院（39.2%）について22位、私大のなかでは、明治大学法科大学院（40.0%）について8位という成績です。合格した本学法科大学院卒業生の真摯な勉強姿勢と努力に敬意を表するとともに、法曹として素晴らしい活躍をなさることを祈っております。

学部基礎を置かない独立した大学院であること、研究者養成を目的とせず、実務法曹（裁判官・検察官・弁護士）養成に特化した大学院であることを特徴としています。したがって、教育も、実務法曹に必要な法律知識・法的思考方法・法廷技術等の修得を目的としています。法科大学院は、司法制度改革を背景に、司法試験という「点」にのみ集中した従来の法曹養成制度の弊害を是正し、法曹の量的拡大のみならず質的向上を実現するため、「プロセス」としての法曹教育をなすことを理念としております。それ故、法科大学院を評価するには、司法試験にどれだけの人数が合格したかということ以上に、どのような教育が行われているのか、院生は法科大学院の講義に専念しているのか、さらに卒業生は、司法試験に合格後、法曹として真に市民の権利を擁護し、その正当な利益に奉仕する活動を行っているのかが問われなければなりません。

さて、関東学院大学法科大学院では、「人になれ 奉仕せよ」という校訓と法科大学院制度の理念に忠実に、人格に優れ、人間味豊かで有能な法曹を社会に輩出す

るために真剣な努力をしてみました。我々が教育にあたり重視したのは、第一に、少人数教育を徹底し、面倒見の良い肌理細やかな指導を行うこと、第二に、学生に講義を中心とした勉学をさせること、第三に、学生の自主的学習を可能な限り支援することです。以下、若干の点を敷衍したいと思います。

法科大学院生には優れた講義が提供されなければなりません。講義の改善を図るものとして教員と学生との懇談会も行っています。また、私法、公法、刑事法各分野で、教員間の講義内容の確認や調

平成19年新司法試験結果 合格率順位(全国68校中、30位まで掲載)

順位	区分	法科大学院名	受験者数	短答合格者数	短答合格率	合格者数	最終合格率
1	国	千葉大法科大学院	62	56	90.3%	40	64.5%
2	国	京都大法科大学院	211	192	91.0%	135	64.0%
3	私	慶應義塾大法科大学院	271	237	87.5%	173	63.8%
4	国	一橋大法科大学院	96	85	88.5%	61	63.5%
5	国	名古屋大法科大学院	65	50	76.9%	41	63.1%
6	国	東京大法科大学院	304	258	84.9%	178	58.6%
7	私	中央大法科大学院	292	254	87.0%	153	52.4%
8	私	早稲田大法科大学院	223	175	78.5%	115	51.6%
9	私	創価大法科大学院	39	30	76.9%	20	51.3%
10	国	神戸大法科大学院	91	80	87.9%	46	50.5%
11	国	北海道大法科大学院	98	81	82.7%	48	49.0%
11	国	東北大法科大学院	96	81	84.4%	47	49.0%
13	国	大阪大法科大学院	73	54	74.0%	32	43.8%
13	国	琉球大法科大学院	16	14	87.5%	7	43.8%
15	国	岡山大法科大学院	23	19	82.6%	10	43.5%
16	公	大阪市立大法科大学院	72	55	76.4%	31	43.1%
17	私	福岡大法科大学院	14	13	92.9%	6	42.9%
18	私	上智大法科大学院	94	82	87.2%	40	42.6%
19	公	首都大東京法科大学院	69	58	84.1%	28	40.6%
20	私	明治大法科大学院	200	163	81.5%	80	40.0%
21	国	九州大法科大学院	74	45	60.8%	29	39.2%
22	私	関東学院大法科大学院	23	14	60.9%	9	39.1%
23	私	南山大法科大学院	26	20	76.9%	10	38.5%
24	私	成蹊大法科大学院	42	33	78.6%	16	38.1%
25	私	立命館大法科大学院	169	130	76.9%	62	36.7%
26	私	神戸学院大法科大学院	11	7	63.6%	4	36.4%
27	私	同志社大法科大学院	161	122	75.8%	57	35.4%
28	国	広島大法科大学院	32	28	87.5%	11	34.4%
29	国	横浜国立大法科大学院	38	26	68.4%	13	34.2%
30	国	香川大法科大学院	9	5	55.6%	3	33.3%
30	国	金沢大法科大学院	24	15	62.5%	8	33.3%



「法科大学院の取り組み ..... 1  
 ～新司法試験9名合格～  
 専門職大学院 法務研究科 松原哲 研究科長

関東学院創立125周年記念事業の概要 ..... 3

創立123周年記念式典・創立125周年記念事業  
 キックオフ集会挙行 ..... 8

関東学院中学校新館献堂式挙行 ..... 8

関東学院の源流を探る—27 ..... 9  
 元関東学院女子短期大学学長 相川高秋 博士

学院役員・教職員人事 ..... 14

建学の精神を生きる「OBに聞く」 ..... 15  
 横浜南共済病院 看護部長 平田京子 氏

特集連載 Vol.2 三代が関東学院に学ぶ ..... 17

学生支援プログラム (学生支援GP)  
 採択される ..... 20

関東学院各校NEWS ..... 21

生涯学習センター講座紹介 ..... 28

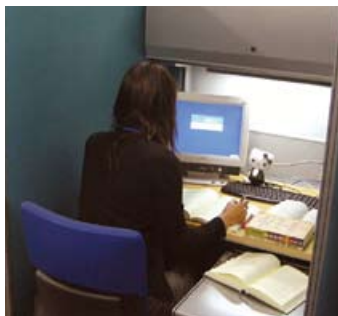
編集後記 ..... 28

主な学校行事予定 (4月～9月) ..... 29

**[カバ・ストーリー]**

●中学校新館建物概要●

設計監理 株式会社 山下設計 横浜支社  
 施工 清水建設 株式会社 横浜支店  
 構造 鉄筋コンクリート造 地下1階 地上5階  
 建築面積 1,845.58㎡  
 延床面積 7,690.39㎡  
 主要用途 地下1階:陶芸室 / 技術室 / コベルホール  
 (食堂)  
 1階:選択教室 / 中高事務室 / 応接  
 室 / 校長室 / 保健室 / 面接  
 室 / 生徒会室 / 中学会議室 /  
 入試準備室 / 香柏会室  
 2階:物理実験室 / 生物実験室 / 中  
 学理科室 / 化学実験室 / 地学  
 実験室 / 中学教員室 / アシスト  
 センター  
 3階:教室 / 選択教室  
 4階:教室  
 5階:教室



法科大学院学生自習室(上)と刑事模擬裁判の様子

**Effort by the Law School –  
 Nine students passed the  
 new national bar  
 examination. –  
 Akira Matsubara,  
 Director of Kanto Gakuin  
 University Graduate School  
 of Law**

Law school graduates throughout the nation took the four-day national bar examination last May. The total number of applicants for the bar examination was 4607, of whom 1851 passed (40.18%). Of 23 graduates from Kanto Gakuin Law School who took the examination, nine successfully passed it. As a result, our law school was ranked second in Kanagawa Prefecture, and 37th in Japan as far as the pass rate is concerned. Kanto Gakuin Law School, faithfully in accordance with the school motto and its Law School's principle, has been committed to educating its students to become outstanding legal professionals of high integrity. Emphasis has been placed firstly on complete small-group education, secondly on enhancement of lecture-centered education, and thirdly on assistance for self-directed learning. More specifically, in our effort to provide high quality lectures, questionnaire surveys on

lectures are often conducted and class observations are conducted by fellow faculty members. We have also held gatherings for faculty members and students to interact with each other and organized workshops jointly by judges, lawyers and researchers. In addition, a study room for students is available 24 hours a day all year round to assist self-directed learning, where graduate students can borrow carrels and PCs. We also offer online services, including lectures, instructions for class preparation, provision of learning materials, questions to and answers from faculty members, and a searching system for court precedents. Recently, the academic advisor system where young lawyers supervise students' self-organized seminars has been introduced. Many other efforts to support students, including interviews conducted by faculty members with their students, have also been made. We would like to acknowledge the serious learning attitudes and efforts of the graduates who have passed the bar examination this time and wish them success in taking an active role as a legal professional in the future.

整を行い、さらに講義改善のために裁判官、弁護士、研究者教員が合同しての勉強会も行ってきました。

他方、法科大学院棟内に学生自習室を設け、院生各人に専用のキャレルとパソコンを貸与し、ここを自主学習の拠点とするようにしました。学生自習室は、院生の要望を入れ、休日利用、24時間利用ができるようにしました。ネットを使っ

て、講義や予習の指示、教材の提供、教員への質問・返答、判例検索等ができるシステムも提供しています。さらに、昨年からは、若手弁護士が学生の自主ゼミを指導するアカデミックアドバイザー制度を導入しました。そのほか、クラス担任が全学生に対し面接を行うなど、様々なかたちで学生の勉学を支援する配慮を行っています。奨学金制度の充実もはかつ

てきました。

さて、この制度のスタート時から法科大学院教授を務めてまいりましたが、私にとり、大学教員として最も過酷な日々であったというのが正直な感想です。これは、大多数の法科大学院スタッフに共通することです。現在の法科大学院は、関係者の犠牲的な努力と法科大学院生達の真摯な勉学意欲によって支えられてい

るのです。しかし、その現状及び将来に關して、憂慮すべき問題が少なくありません。法科大学院は、わが国の将来の社会の極めて重要な社会貢献の場でもあります。学院、大学ならびに関係各位のこれまでのご理解に深く感謝するとともに、今後のさらなるご支援を心よりお願い申し上げます。

## Kanto Gakuin 125th Anniversary Project Plan

Summary of 125th Anniversary Events and Projects

Since its foundation in 1884 in Yokohama, Kanto Gakuin has been providing education based on the principles of Christianity and has produced many outstanding individuals. Our graduates are playing leading roles in a variety of fields in keeping with the school motto "Be a man and serve the world." We would like to take the occasion of the 125th anniversary to look back on our history and to strengthen the foundation for our future success. To achieve this goal, anniversary events and projects will be held based on the concept "For the first step for Kanto Gakuin following a 125-year history" and with "Serve the World 21" as its basic theme. It is our hope to comprehensively enhance the educational capacity of Kanto Gakuin through these events and projects. Anniversary projects to be organized by Kanto Gakuin Schools will include education promotion projects such as the establishment of scholarships, construction of new buildings, and improvement of the educational environment. Those projects by Kanto Gakuin University will be mainly focused on education and research promotion, including the establishment of a new educational organization, creation of scholarships, creation of a multidisciplinary research organization, and implementation of academic symposiums. The University will also promote social contribution and international exchange projects, as well as cultural and sports activities. A homecoming day and other events to promote interaction between Kanto Gakuin and its students, graduates and their parents will also be held. In addition, the "KG Alumni Biography" of graduates of Kanto Gakuin who are playing active roles in society and a Kanto Gakuin commemorative publication will be compiled. Many other special events such as symposium, concerts and friendly sports matches in keeping with the theme of "Serve the World 21" are being planned.

## 記念事業概要 創立125周年記念事業趣意書

1884年創設の横浜バプテスト神学校を源流とする関東学院は、キリスト教を建学の精神として、横浜の地に根ざし、これまで多くの有為な人材を育ててまいりました。多士多才の卒業生は、日本社会の中核を担い、校訓「人になれ 奉仕せよ」の精神を今も受け継ぎ、各界で活躍しています。

125年の道のりは決して平坦なものではなく、幾多の試練を経て今日に至っております。我々は歴史を振りかえり、明日の学院をつくる基礎をいっそう強固に致したいと考えています。そのために関東学院創立125周年記念事業は、「関東学院125年の新たな一歩にむけて」をコンセプトとし、「Serve the World 21」の基本テーマの下に、学院の教育力を総合的に高める記念事業を推進していきます。

関東学院は、あげて創立125周年記念事業に邁進する所存です。記念事業とは、関東学院各校にあっては、奨学基金、新棟建設、教育環境整備等の教育振興事業を、また、大学にあっては、新しい教育組織の設立、奨学基金の創設、総合研究機構の創設、学術シンポジウムの開催などの教育研究振興事業を柱として、社会貢献事業及び国際交流振興事業をも推進し、併せて文化活動やスポーツ振興を図るものです。この間に、在校生、卒業生、保護者の方々との交流を深めるためにホームカミング・デイ等を設け、また学院を卒業して社会に活躍する方々の「KG人録記」や学院記念誌を編纂いたします。記念誌編纂の目的は、125年の経験に学び、先達の足跡を正しく後世に伝承することにあります。記念イベントとしては、「Serve the World 21」を基本テーマに、シンポジウムやコンサート、スポーツ親善試合など、数多くの企画を用意し、さらにはこの記念事業を末永く心に止めていただけるよう、基本テーマの思いを込めた各種グッズを製作します。

### Olive

The school emblem of Kanto Gakuin is an olive branch, which has been well known as a symbol of peace based on a story in the bible: A dove sent out from the ark by Noah after the great flood returned with an olive branch, showing the direction to a peaceful land. Our mission is to show "the way to peace" with "the olive branch representing education." In order to complete this mission, we seek your support and understanding.



### Olive

学院各校の校章に刻まれている「オリーブ」は、大洪水のあとノアの箱舟から放った鳩がくわえて舞い戻り、平和の地を指し示した枝として、よく知られています。また「オリーブ」は、「平和」の象徴でもあります。時代は混とんとし、まさに洪水にのみ込まれるかのような錯覚さえ覚える昨今、我々は、「教育というオリーブの枝」で、「平和の道」を確実に指し示していく使命があります。その使命を果たすために、学院に連なる卒業生、在校生保護者、企業、法人、教職員、賛同者各位のご支援ご理解をお願いするものです。

# 関東学院創立125周年記念事業の概要

## Donations for anniversary projects

We accept donations for the following anniversary projects. Your understanding and cooperation would be much appreciated.

Our school motto "Be a man and serve the world" was the spirit behind the founding of Kanto Gakuin. We believe that our mission on the occasion of the 125th anniversary is to pass this spirit on to the next generation and to build a foundation to keep the spirit alive for many generations to come. To achieve our mission, we will conduct fundraising projects seeking monetary donations, including "Olive Green Fund," "Olive Scholarship Fund," "University Scholarship Fund," "Sports and Culture Promotion Fund" and "Social Contribution and International Exchange Projects Fund." We would greatly appreciate your donations.

### Anniversary Fundraising Projects organized by Kanto Gakuin Schools

- 1.Olive Green Fund: Fund to improve educational environments in the junior and senior high schools, elementary schools, and kindergartens
- 2.Olive Scholarship Fund: Scholarship to assist junior and senior high school students, and elementary school and kindergarten children who cannot continue their studies due to urgent financial difficulty
- 3.Education Promotion Grant: Grant for education reform projects with the aim of promoting education in Kanto Gakuin Schools
- 4.Social Contribution and International Exchange Projects Fund: Fund to promote Kanto Gakuin's educational projects that contribute to developing local communities and that address globalization issues
- 5.Sports and Culture Promotion Fund: Fund to help enhance sports clubs and promote cultural activities in Kanto Gakuin Schools

### Kanto Gakuin University Anniversary Fundraising Projects

- 1.University Scholarship Fund: Scholarship to assist students in their academic pursuits
- 2.Sports and Culture Promotion Fund: Fund to help enhance sports clubs and promote cultural activities of the university
- 3.University Promotion Fund: Donations received for unspecified purposes, which will mainly be used for projects planned by the university
- 4.Other designated funds and donations: University Research Promotion Fund, Kanto Gakuin Social Contribution and International Exchange Projects Fund, and Surface Engineering Scholarship

## 記念事業募金について

記念事業募金は、主として次のようなものがあります。関係者、卒業生の皆様をはじめ、在校生保護者の皆様、教職員、企業その他の団体の皆様には、ご理解ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

「人になれ 奉仕せよ」は、建学の精神をあらわした校訓です。この精神を次世代に確実に伝え、さらに次の世代へと受け継いでいく礎を築くことが、創立125周年の節目を迎えた今、学院を預かる私たちの使命と考えております。そこで、上述しました通り、この期をとらえ、学院固有の教育資源を通してさまざまな記念事業を展開してまいります。この記念事業達成のために「オーブグリーン募金」「オーブ奨学基金」「大学奨学基金」「スポーツ・文化振興資金」「社会貢献・国際交流事業資金」などの事業募金を実施します。この募金に、ぜひとも皆様のご協力をお寄せいただきたく、ここにお願ひ申し上げます。

ご寄付にご賛同いただけます場合には、それぞれの募金をご指定の上、お申し込みくださいますようお願い申し上げます。ご指定のないご寄付につきましては、「創立125周年記念事業募金」として取扱いさせていただきます。なお、大学については、ご指定のないご寄付は「大学振興資金」として取扱いさせていただきます。



### 関東学院各校の記念事業募金

#### 【1】オーブグリーン募金

<募金目的> 高等学校・中学校・小学校・幼稚園のそれぞれの教育環境整備を図るための資金

#### 【2】オーブ奨学基金

<募金目的> 緊急な経済的困窮によって学業の継続が困難になった生徒、児童、園児へ給付するオーブ奨学基金

#### 【3】教育振興助成金

<募金目的> 関東学院各校の教育奨励を目的に教育改革事業へ助成する教育振興助成金

#### 【4】社会貢献・国際交流事業資金

<募金目的> 関東学院として地域社会に貢献する教育事業と国際化に対応する教育事業を推進する資金

#### 【5】スポーツ・文化振興資金

<募金目的> 各校のスポーツクラブの強化と文化活動の推進を図るための支援資金

### 関東学院大学の記念事業募金

#### 【1】大学奨学基金

<募金目的> 学生の修学支援を目的とする大学奨学基金

#### 【2】スポーツ・文化振興資金

<募金目的> 大学のスポーツクラブの強化と文化活動の推進を図るための支援資金

(注) スポーツ・文化振興資金は、大学の部活動等を寄付対象として指定できません。

#### 【3】大学振興資金

<募金目的> 用途を定めないご寄付として大学の企画事業などに使用する資金

#### 【4】その他の指定資金および募金

<募集目的>

■ 大学研究振興協力資金

■ 関東学院社会貢献・国際交流事業資金

■ 表面工学奨学基金など





# Serve the World 21

## 未来へ繋ぐ 建学の心



関東学院六浦中学校・高等学校2号館完成予想図



関東学院中学校高等学校新棟完成予想図

創立125周年記念事業は、関東学院を飛躍させる事業でありたい。  
そしてそれを具現化するために、各校・大学において  
多彩な記念事業やイベント企画を実施していきます。

### I. 関東学院各校教育振興事業

学院各校（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）では、社会貢献の心をそなえた青少年の育成にむけて、教育方法にいつそうの工夫をこらすほか、その育成を促進するために奨学制度を創設し、また新しい時代に対応した最新の教育環境を整備します。

1. 関東学院オーリーブ奨学基金の創設
2. 関東学院中学校高等学校新棟建築
3. 関東学院六浦中学校・高等学校2号館建て替え・礼拝堂改修
4. 関東学院小学校及び六浦小学校の教育環境整備
5. 関東学院六浦幼稚園及び野庭幼稚園の教育環境整備

### III. 社会貢献・国際交流振興事業

学院生（園児・児童・生徒・学生）、ご父母、教職員、卒業生、その他社会貢献の志を共にする人々の力を結集して、社会貢献事業を推進します。また、国際都市横浜を発祥地とする総合教育機関として、国際化社会における異文化理解を深めるため、国際交流をさらに推進します。

1. 「社会貢献」プロジェクトの推進
2. 「Serve the World 21」学生企画
3. 国際交流事業の推進

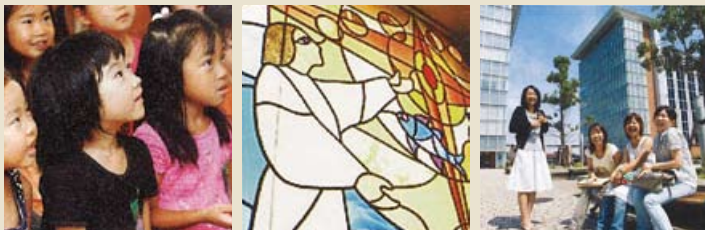


### II. 大学研究教育振興事業

大学では各界で社会貢献を果たしうる有為な人材の育成にむけて、新しい教育組織を設立するとともに、奨学制度を整備拡充するほか、未来社会が必要とする総合的な研究の推進と研究成果の迅速な社会還元のために研究機構を創設します。また、学術シンポジウム・講演会を、125周年記念を迎える2009年まで毎年度実施します。

1. 新しい教育組織の設立
2. 大学奨学基金の創設
3. 総合研究機構の創設
4. 学術シンポジウム・講演会の開催





### Serve the World 21 Passing the spirit behind the founding of Kanto Gakuin on to future generations

In the hope of promoting further growth of Kanto Gakuin, we are planning the following events and projects for the 125th anniversary:

I. Education promotion projects conducted by Kanto Gakuin schools

With the aim of educating young students so that they will be ready to contribute to society, Kanto Gakuin schools will develop improved education methods and establish new scholarship programs.

In addition, the educational environment will be updated so as to provide education that meets the requirements of the new age.

II. Education and research promotion projects conducted by Kanto Gakuin University

A new educational organization will be established to allow the university to educate students to become outstanding contributors in various fields in society. In addition, the university will improve its scholarship programs as well as offer new ones. A research organization will also be created for the purpose of promoting multidisciplinary research that will be required in the future and for applying research findings for the benefit of society as quickly as possible.

III. Social contribution and international exchange projects  
With all the power of Kanto Gakuin students, their parents, faculty and staff members, graduates, and those who share

the spirit of social contribution, social contribution projects will be implemented. Kanto Gakuin, as a multidisciplinary educational institution located in Yokohama, will also place more emphasis on international exchange projects to deepen cross-cultural understanding in a globalized world.

IV. Extracurricular activities promotion projects  
Extracurricular educational activities, including cultural and sports activities, will be promoted in a way that encourages students to contribute to society from a long-term standpoint.

V. Alumni interchange project  
Interchange among graduates will be promoted for mutual improvement, and the "KG Alumni Biography" on graduates of Kanto Gakuin who are playing active roles in various fields in society will be published.

VI. Commemorative special projects  
Commemorative publications and products to honor the 125-year history of Kanto Gakuin, which has fulfilled its mission as an educational institution, and to symbolize the spirit of social contribution will be produced.

VII. The 125-year anniversary project week (October 2009)  
During the 125-year anniversary week in October 2009, Kanto Gakuin students, their parents, those concerned, and faculty and staff members will all gather together to celebrate the anniversary and discuss the future of Kanto Gakuin.

## IV. 課外活動振興事業

社会貢献の長期的展望にたつて、文化活動・スポーツ活動など課外の教育活動の振興を推進します。

1. 文化活動振興事業の推進
2. スポーツ活動振興事業の推進
3. 「スポーツ・文化活動と地域貢献」イベントの開催

## V. 卒業生交流

相互研鑽のために卒業生交流を促進し、また、学院を卒業し、各界で活躍する方々の「KG人録記」を発行します。

1. 卒業生との交流促進
2. ホームカミング・デイの実施
3. 「KG人録記」の発行

## VI. 記念特別事業

125年にわたり教育機関としての社会的使命を果たしてきた学院の歴史を跡づけるとともに、社会貢献の思いを徴にした記念出版物・グッズを製作します。

1. 創立125周年記念学院史編纂
2. 創立125周年記念出版物・グッズの製作

## VII. 創立125周年記念週間企画(2009年10月)

創立125周年を迎える2009年10月の創立記念週間においては、学院生(園児・児童・生徒・学生)、ご父母、その他の関係者および教職員がつつどい、創立125周年を盛大に祝うと共に、関東学院の将来を語り合うために、次のイベント等を予定しています。

1. 記念シンポジウム  
「Serve the World 21—関東学院の未来を拓く」
2. 記念コンサート
3. 記念式典
4. スポーツ親善試合と卒業生交流会
5. 「Serve the World 21」学生企画の集成

# 関東学院創立125周年記念事業の進行状況

	理事会関連事項	学院史編纂委員会関係	募金実行委員会関係	推進委員会・社会貢献・国際交流関係	広報関係
2004 (H16) 年度				・12月14日(日)特別講演会「英国と日本・教育と歴史」横浜情報文化センター-情文ホール	・3月 学報No.29特別講演会「英国と日本・教育と歴史」掲載
2005 (H17) 年度	・9月15日(木) 第860回常任理事会「創立125周年記念事業推進委員会」を設置 ・2月23日(木) 第415回理事会「創立125周年記念事業委員会」を設置。学院史編纂委員会・募金実行委員会・記念事業推進委員会を設置	・2月8日(水) 第1回 学院史編纂委員会開催		・10月8日(土) 日露修好150周年記念講演とシンポジウム「日露文化交流と教育の役割」 ・12月22日(木) 国際交流事業「六浦・チェンマイ同時子ども交流会」 同時中継交流開催(大学・六小)	・9月 学報No.30「創立125周年ロゴ」掲載開始 ・3月 学報No.31「関東学院創立125周年記念事業計画について」掲載
2006 (H18) 年度	記念事業委員会	9月13日(水)記念事業・募金プロジェクト(～1月16日まで11回開催)			
		・9月21日(木)～10月11日(水) 学院史展示会(第一回)「建学の精神を求めてーベンネットと坂田祐一」 Foresight21・1階 ・1月17日(水)～2月14日(水) 学院史展示会(第二回)「建学の精神と奉仕教育活動ー国際交流(理解と共生)ー」 Foresight21・1階	・10月16日(月) 創立125周年・中学校高等学校創立90周年事業「関東学院中学校高等学校新棟建設工事起工式」(中高) ・11月 創立125周年記念事業プレ募金開始・中高オリブグリーン募金開始	・10月12日(木) 社会貢献国際交流事業「シーボルトコレクション植物画集出版プロジェクト調印式」実施 ・10月21日(土) 社会貢献事業「横浜のキリスト教主義学校教育ー横浜とミッション・スクールー」 KGU 関内メディアセンター ・11月1日(水)～5日(日) 特別展示会「近代黎明期における関東学院の建学の精神と伝統文化展」(大学) ・11月4日(土) 国際交流事業「日・韓国シンポジウム」 KGU関内メディアセンター(大学) ・11月23日(木) 国際交流事業「国際シンポジウムー大航海時代の光と影ー」小田原ハリントンホール ・12月31日(日) 国際交流事業「関東学院サービスラーニングセンター献堂式」(六小) タイ王国チェンマイ県ティワタ村ファイナムカウ教会子供寮	・4月 125周年記念事業HP 立上げ ・9月 学報No.32「関東学院創立125周年記念事業の概要」掲載 ・3月 学報No.33「関東学院創立125周年記念事業報告」掲載
2007 (H19) 年度	記念事業委員会	・7月4日(水)～25日(水) 学院史展示会(第三回)「戦時下の関東学院一試練と建学の精神ー」 Foresight21・1階 ・10月2日(火)～24日(水) 学院史展示会(第四回)「関東学院の源流を探るー横浜バプテスト神学校と東京中学院」 Foresight21・1階 ・1月30日(水)～2月20日(水) 「関東学院の歩み」展 Foresight21・1階	・10月6日(土) 募金事業開始	・6月13日(水) 第1回 関東学院クリスマスコンサート委員会開催 ・10月6日(土) 創立123周年記念式典・125周年事業キックオフ集会 ・10月6日(土) 学院シンボルデザイン募集開始 ・12月13日(木)、14日(金) 国際交流事業 国際ワークショップ共催 循環型経済社会・日中韓都市比較研究会主催 関東学院共催「循環型社会の形成を目指した東アジア地域の都市レベルでの連携と協力の模索」 ・3月 社会貢献・国際交流事業「シーボルト日本植物図譜コレクション」出版	・9月 学報No.34「関東学院創立125周年記念事業の基本コンセプト」掲載 ・10月6日(土) 125周年事業趣意書配布 ・3月 学報No.35「関東学院創立125周年記念事業趣意書・同事業計画」掲載

**Progress of Kanto Gakuin 125th Foundation Anniversary Projects**  
Board of Directors  
2005 (Fiscal year)  
9.15 (Thu) Organized promotion committee of the 125th Foundation Anniversary Project  
2.23 (Thu) Organized Committee of the 125th Foundation Anniversary Project, Committee for the Compilation of Kanto Gakuin Historical Material, Committee for Fundraising Project

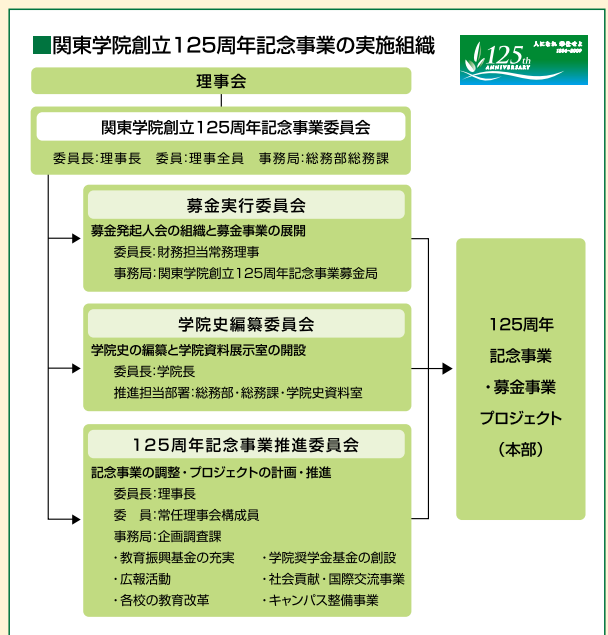
Committee of the Compilation of Kanto Gakuin Historical Material  
2005 2.8 (Wed) 1st committee meeting

2006 9.21 (Thu) – 10.11 (Wed)  
1st exhibition “Seeking the Founding Spirit –Bennett and Tasuku Sakata–” Foresight21,

1st floor  
1.17 (Wed) – 2.14 (Wed)  
2nd exhibition “Founding Spirit and Volunteer Work –International Exchange (Understanding and Symbiosis) –” Foresight21, 1st floor  
2007 7.4 (Wed) – 25 (Wed)  
3rd exhibition “Kanto Gakuin Under the War –Challenges and Founding Spirit–” Foresight21, 1st floor  
10.2 (Tue) – 24 (Wed) 4th exhibition “Searching for the Roots of Kanto Gakuin – Yokohama Baptist School of Theology and Tokyo Chugakuin–” Foresight21, 1st floor



**関東学院創立125周年記念ロゴ・デザイン**  
2009年に関東学院は、1884年、横浜山手に創立の横浜バプテスト神学校から数えて125周年を迎えます。2009年は横浜開港150周年の年でもあり、同年を一つの目標として学院事業を展開して行きます。これを記念して「創立125周年記念ロゴ」を制作しました。





# 関東学院創立123周年記念式典および 創立125周年記念事業キックオフ集会在行される

## 123rd Anniversary Ceremony and 125th Anniversary Project Kick-off Meeting

Marking the 123rd anniversary of its foundation on Saturday, October 6, 2007, Kanto Gakuin held a prayer service at the chapel on Kanazawa Hakkei campus from 9:00 in the morning and an anniversary ceremony at Bennett Hall from 10:00. At the anniversary ceremony, board member awards and long service awards were presented. Following the award ceremony, the 125th Anniversary Project Kick-off Meeting was held from 11:00 in an exuberant atmosphere with the collaboration of Junior and Senior High School O.C.C. Handbell Choir, which played hymns, and the Gakuin Choir, which sang school songs.

2007年10月6日(土)、関東学院は創立123周年を迎えました。式典としては、午前9時から大学金沢八景キャンパス礼拝堂において祈祷会、続いて10時からベネットホールにおいて記念式典が挙行されました。同式典では役員表彰・永年勤続表彰が行われ、役員1名、勤続満35年教職員11名、勤続満25年教職員9名が表彰されました。

その後、11時から同ホールにおいて創立125周年記念事業キックオフ集会在、中学校高等学校O.C.C.ハンドベルクワイアによる賛美演奏並びに学院聖歌隊による各校校歌合唱の協力を得て盛大に執り行われました。



### ●役員表彰受賞者●

理事 西野 芳夫

### ●永年勤続表彰受賞者(勤続35年)●

大 学 稲吉 亮

神尾 俊久

小林 一郎

須藤 晃

野知 啓子

佐々木 強

中学校高等学校 木戸 幹夫

曾我 正明

高橋 義和

法 人 事 務 局 安倍 和夫

三浦 啓治

### ●永年勤続表彰受賞者(勤続25年)●

大 学 高橋 公夫

多ヶ谷 有子

牧 充

佐藤 千秋

船木 政俊

中学校高等学校 常間地 ひとみ

六浦中学校・高等学校 渡邊 茂

中村 真由美

小 学 校 名取 俊夫

## Consecration ceremony of the new Kanto Gakuin Junior High School building

On Wednesday, February 27, 2008, the consecration ceremony of the new Kanto Gakuin Junior High School building was held at Kanto Gakuin Junior and Senior High School's Gressitt Chapel.

献堂式で説教する森島牧人学院長



式 次 第	
	司 儀 中 國 宗 教 大 学 副 学 長 阪 井 隆 一
前 奏	「神よ、汝の御座の所に今ぞ進み出で」 J. S. Bach
招 詞	
聖 書 朗 読	歴代誌下 第6章 12節～21節 ヨハネによる福音書 第1章 1節
祈 禱	
讃 美 歌	210 (きよきところをつくれよと)
説 教	「主の前に歩む」 学院長 森 島 牧 人
式 辞	理事長 内 藤 幸 穂
校 辞	中国校長 冨 山 隆
讃 美 (演 奏)	LAUDATION O.C.C. ハンドベルクワイア 197 (おこりてたおるる)
感謝状贈呈	
記念品贈呈	
頌 栄	541
祈 禱	
後 奏	「まことなる御神を頼める者のみ」 J. S. Bach

献堂式で讃美歌を歌う参列者の方々



2008年2月27日(水)、中学校高等学校グレスitt礼拝堂において中学校新館献堂式が挙行されました。

関東学院中学校新館献堂式が挙行される



相川先生

# 相川高秋 博士

Dr. Takaaki Aikawa (1905-1995)

元 関東学院女子短期大学 学長



モスクー教会での講演(1968)

## 女子教育の推進者

関東学院の二つの前身校である横浜バプテスト神学校も、東京学院も、そして中学関東学院も、その後の中学部と高等学部(旧制専門学校)を擁した関東学院も、男子を対象とした学校であった。しかし戦後いち早く、関東学院は女子教育を始めることを決断した。

相川先生は「女子教育の始まり」と題して、ご自分の女子短期大学との関わりから、関東学院女子教育の流れをたどっている。

「本女子短大の前身である関東学院女子専門学校は、1946年(昭和21年)4月、新しい出発を始めた。それは終戦の翌年であり、日本は敗戦の廃墟と混乱の中に、関東学院は4分の3を焼失するという壊滅の状態にあった。併し学院当局は、8月15日の敗戦と同時に再建の計画を練り始め、既存の中学部(のちの中高)の他に、女子専門、経済専門、工業専門の三専門学校の設定を考えたのである。経済専門は旧高商部の復活であり、工業専門は、戦時中、文部省の強い要請によって、高商部を転換して作った航空工業専門学校

の継続であった。其途には女子教育の経験が全くなかった関東学院にとって、女子専門学校の設置は、一種の冒険であったが、戦争と男子中心の世界に厭き厭きした我々は、ギリシャの劇作家アリストファネスが、その『女の議会』で風刺したように、女性エリートを創り出す事こそ平和への道であると考えようになったのである。」

これは今日の言葉で言い換える必要があるかもしれない。平和を目指す新しい

日本をつくるためには、女子の教育が不可欠である、と当時の学院当局が判断したというのである。これは新しく制定された憲法の精神にそうものでもあった。実は当時の連合軍総司令部は政策として日本女性の権利の確立を意識的に推進していた。戦前から、キリスト教の女子教育が日本の近代化に先駆的働きをしてきたことは、あらためて指摘するまでもない。しかし新しい民主的な日本をつくるためには、女性の役割が大きいことが注目されていたのである。

相川先生は1980年4月に行なわれた座談会「回顧と展望」の中で、もう一つの理由を挙げておられる。

「その当時、坂田先生は捜真(女学校―筆者注)の校長も兼ねておられ、捜真が空襲に遭った際、関東の校舎を使っていたことなどが、女子の学校を作り出すということにやはり、相当、心理的なプレッシャーを与えたように私は感じるので。坂田先生は、『関東学院は男の学校だけでなく、君、女子の教育できるだろう、是非やろう、やらなくてはならないんだ』ということで、女子専門学校をつくるという構想がまず始まったわけです。」

ところが相川先生と坂田学院長の間に女子教育について見解の違いがあったという。相川先生はこう述べる。

「坂田先生のは、終始一貫して良妻賢母ですね。良妻賢母的な専門学校を作って、いいお嫁さんをつくらうということが、先生の考えだったと思います。私は全くそれと反対で、社会的な任務を持った女性の教育ということですね。」

相川先生はこの点で新しい流れをいち早く洞察し、推進することにとつとめた

いえる。女子専門学校は、高等学校が現在の金沢八景キャンパスに移ったので、三春台を使ってよいということになった。こうして1946年4月15日に三春台において関東学院女子専門学校(英文科、家政科)が設立された。校長には相川先生がなされた。翌年には、関東学院女子高等学校(英語科、家政科、別科として英語実務科、被服促成科)も設立された。この学校の校長も、相川先生がつとめた。1950年4月には、新しい学制のもとで、関東学院大学短期大学部(英文科、家政科)が三春台に設立されている。短期大学部(経済科、工科)は金沢八景キャンパスに開設された。部長は相川先生であった。これらの開設に伴い、旧制度のものとの女子専門学校は1951年3月31日をもって廃止された。女子高等学校は男女共学の関東学院高等学校に併合された。その後、1953年4月には、短期大学部家政科が先ず金沢八景キャンパスに移転、翌年には英文科が続いた。1957年には短期大学部が関東学院短期大学となった。1966年には国文科を増設している。1967年には関東学院女子短期大学に名称変更し、女子のみ受け入れることになった。

折から、1968年から数年にわたり、関東学院大学は紛争「重症校」の混乱のもとにあった。しかしこの中で、女子短期大学は独自性を守ることができ、安定した教育を推進し、講義を一日も停止することはなかった。この時期に相川先生は大学と女子短期大学の両方の責任をになっている。

1970年には、旧宣教師館用地と通称「ハンソン山」をキャンパスに造成す

る工事が完了し、女子短期大学の教育の中心を順次、室の木キャンパスに移転していった。1979年2月には移転を完了した。

相川先生はこう振り返って述べておられる。

「事実上、女専、短大にわたって、私が校長、部長、学長という名称で、この学校の責任を持たされていたのは、1946年4月から1968年11月までの約22年間であって、それは終戦の混乱に始まり、大学紛争の混乱に終わった動揺の年月であった。私はとうとう一生の間、本建築の学長室に座ることなくあくわただししい年月を過ごしてしまったのである。それだけに、現在の絢爛たる女子短大の校舎を眺めると、ただ眩しさを感じざるをえない。」

やがて女子短期大学は、今日の間環境学部となった。相川先生が「眩しさを感ぜずにはいられない」と表現した校舎とは、瀟洒な、よくまとまった、清潔な今日の室の木キャンパスの校舎のことである。先生は女子教育の責任を担った時の願いをこう記している。「ただ私が夢みていたことは、彼らの幾人かが、新しい民主主義日本の女性として、母として、軍国主義復活を食い止め、平和のために闘ってくれば満足であったのである。」

そして生涯を回顧してこうも述懐する。戦後女子専門学校を逸早く創設したことについて「敗戦後の民主主義の波に乗って、女性の向上を熱情込めて歌った先駆者の喜びであった。」

## コベル一家のこぼれ

相川先生は約10年間、コベル先生の間

僚として関東学院高等商業部で教えていた。先生は『死と虚構』の中で「忘れ得ぬ人々」と題して、コベル一家のことを詳しく書いておられる。こころ温まる素晴らしい随筆である。少し長くなるが、語り伝えなければならぬものなので、ここに引用しておきたい。

「J・H・コベルさんは1896年米国ペンシルバニア州アセンズに生れています。彼はローチエスター大学、ブラウン大学、ニュートン神学校を卒業し、1919年宣教師として日本に来られたのですが、1939年平和主義者の故に日本を追われ、1943年フィリピンのパナイ島で、奥さんのシャルマさんを含め10人の他の宣教師とともに、日本軍に首を斬られて殺されているのです。私は、コベル夫妻を最後に見送った曇天の横浜埠頭を忘れることができません。船が棧橋を離れて次第に遠ざかって行った時、しきりとハンカチを振っていた私の肩を叩く1人の黒背広の男がいました。その目の鋭いずんぐりした男は、特高の証明書を手ラリと見せると、低いドスの聞いた声で、コベルさんを見送っていた私の仲間の氏名を聞くのでした。コベルさんは、別に激しい平和運動をしていたわけではありませんが、彼が宣教師として働いていた関東学院の学生の間では、彼を徹底した平和主義者として尊敬もし、警戒もしていた者が多かったのも事実です。

やがて戦争のかけが日本全体を覆い始め、関東学院でも軍事教練をしなくてはならなくなりました(当時の専門学校で軍事教練を断りつづけていたのは、関東学院と物理学校だけだったと言われています)。私が『今日は誰かの葬式ですか』と聞くと『ええ、そうです。関東学院のお葬式です』と彼は悲しげに答えるのでした。その足で彼は配属将校のところに çıkけて行きましたが、彼がその将校に『どうです。この服私に似あいますか』と言って、その将校をめんくらわせたということを後で知りました。当時においては、それが彼の精一杯のレジスタンスだったのでしよう。

日本軍の手を逃れて、コベルさんその他の宣教師たちが、パナイ島の山奥のくれた礼拝所で、ひそかにクリスマス準備をしていたところに、日本軍出現のニュースが届いたのは1943年12月18日のことだったと言われています。一同は早速さらに山深く逃れたのですが、女と子供数人が捕らえられたという話を聞いて、彼らはその安全な場所を捨てて日本軍に出頭しました。それが翌19日の夕刻のことと伝えられています。

コベルさんは日本語が自由だったので、自分たちは戦闘員ではないこと、日米いずれにも荷担するつもりがないこと等を、ゆっくりと静かに説明したと言うことです。しかし日本軍の答えは、『命令なのです』の一点張り、一同の助かる余地の全くないことがやがて一同に分かるようになりました(関東学院の卒業生の1人が、終戦後汽車の中で、そのときの日本兵の1人に逢っています。その兵士は、かわいそうだったが、仕方がなかったよ、

とその時のことを語ったといっています)。「淵田(真珠湾攻撃の指揮者の淵田大佐―筆者注)さんが、敗戦後、生きる目標を失って、悶々として日々を送っていた時、かつて彼の部下であった海軍の軍人の1人が、アメリカの俘虜生活から解放されて帰ってきました。その男は彼の地で驚くべき経験をして、そのためクリスマスとなったのです。」

その経験というのは、彼の俘虜収容所に美しいアメリカの女の人が勤務していた、その人が敵国人である彼ら日本人に、心からのやさしさを以って接してくれたのです。あまり日本のことをよく知っているの、その男はある日その女の人にその理由を聞いてみました。するとその女の人は、自分の父は日本に宣教師として働いていたが、今回の戦争で日本を追われ、両親ともフィリピンで日本軍に斬殺されたということを話しました。

「私は父母が愛した日本人のためにできるだけのことをしたい」というのが、その女の人の結論でした。米英撃滅の精神と仇討ちの伝統の中で育ったその軍人は、全くびつくりしました。そうして、なぜそのようなことができるのかという問いに対して、渡されたのが1巻の聖書だったというのです。しばらくしてその軍人は、クリスマスチャンになり、その話を聞かされた淵田さんもクリスマスチャンに、さらに進んで伝道者にまでなったのです。」

「コベルさんには2人の娘がありました。1人はマーガレットといい、他はアリスと呼ばれていました。きわめて普通のアメリカの娘でしたが、当時学校に勤めていた姉は、両親の悲報を聞くと直ちにその職を辞めて、日本人俘虜収容所の



勤務を志願したという話です。両親を理由もなく殺した敵国の軍人をも愛しようとしたその年若いアメリカ娘の決心はどこから出てきたのでしょうか。私は戦後間もなくのアメリカでこの話を聞き、本当に日本は負けたと思いました。そのことをアメリカ・ミッシヨンの人に話したら、さらにもう1人の娘さんの話を聞かされました。その話は次のようなものでした。

ある日、ミッシヨン本部は、1通の手紙をアリス・コベルさんから貰いました。その手紙には多額の金が小切手で同封されておられ、手紙の文面は次のごとく読まれました。『私の両親の殉教の死を知りました。そのことに関して私もいろいろ考えさせられたのですが、結論は、父が生きていたら愛し、力を尽くしたであろうところの日本人のために、私としても何かをさせていただきたいということでした。私はここに私の俸給の1ヵ年分に相当する金額を同封します。これを日本の若い人々のお役に立てていただきたいと思えます。』

私は答える言葉を知りませんでした。もし私だったら、私の両親を殺した敵国人のために、1ヵ月分の俸給でも差し出したのでありましようか。私は暗然たる気持ちになって、ただ首をうなだれているより仕方がなかったのであります。』

「戦後20数年がすぎて、その娘さんのうちの1人が、横浜の地を訪れました。コベルさん一家が戦前住んでいた宣教師館の一つ一つの室を眺めながら『わたし、いたずらをしてあの押入れに入れられました』とポツンと彼女は言いました。しかし彼女は壮絶なる両親の最後に関して

も、彼女ら姉妹の行なった事柄に関して、口を緘して一言も申しませんでした。それらにふれると涙が流れて仕方がないということでした。私は彼女が平凡な弱い女であること、あきらめがたい気持を他人同様に持っていることを知り、かつて心を打たれました。平凡な弱い人々の挫ける心を支えて、驚くべき行為をなさしめるもの、それは何であったのでしょうか。コベル夫妻の霊よ安かれと私は再び祈らずにはいられたのでした。』

### 歩んだ道

きにおいて具現している。

相川高秋先生は1905年10月12日に東京市ヶ谷左内坂に生まれた。そこは関東学院の前身校の一つ、東京学院のあったところでもある。父の渡部元は根室出身である。先生の歩みの話は、根室から始めなければならぬ。アメリカ・バプテスト・ミッシヨナリー・ユニオンから派遣されたC・H・カーペンター夫妻は、1886年にアイヌ宣教を志して根室にやって来た。ところがそこにはアイヌの人々は住んでいなかった。根室とその周辺の人々に宣教を始めた。渡部家は代々越後高田藩士の家系であった。しかし明治維新になって、根室近くの東和田村に屯田兵として入植した。そこで渡部元は父の豊次郎とともにカーペンター宣教師と出会うことになった。しかし残念

にもカーペンター宣教師は病のために根室に来て百数十日住んで、宣教の幻を果たせずに、天に召されてしまった。しか

しカーペンター夫人はそこに残って働きを続けた。その死に接して、この渡部元はカーペンター宣教師の遺志を託されたを受け止めている。その後も根室に残ったカーペンター夫人を中心に根室バプテスト教会が設立された。さらに後にバプテスト神学校の教授となったW・B・パーシュレーもここで宣教活動に従事している。

渡部元はパーシュレー宣教師からバプテストマを受けた。そして1895年に設立されたばかりの東京中学院（後に東京学院に改称）の第3学年に編入を許された。彼は3年後に第1回の卒業生となっている。さらに横浜バプテスト神学校に入學、1901年に卒業した。牧師としての接手札はベンネット博士から受けている。卒業後、出身地の根室に戻り、根室教会のために働いた。高秋先生の兄君一高先生はこの時期に生まれている。

高秋先生が生まれたときは、渡部元牧師は四谷バプテスト教会牧師をしておられた。後には、財団法人関東学院の理事長を務められたこともある。

渡部元牧師の長男、一高先生は、東京学院中学院に入學したが、1917年にこの中学院は閉鎖されたために、青山学院中等部に転校、さらに青山学院高等学部英語師範科に進んだ。卒業後、米国のコーネル大学を優秀な成績で卒業。オックスフォード大学とベルリン大学でも研鑽を積まれた。帰国後は、1927年に関東学院高等部に商科と社会事業学科が設立されたとき、社会事業学科部長に就任した。1939年には関東学院を退職して、東亜研究所に所属、戦後はニュー・ファミリー・センターにおいて活躍した。

またフルブライト交換教授として母校コルゲート大学で教えたこともある。1968年に本学文学部が設立されたとき、再び迎えられて文学部社会科学教授となった。

高秋先生も青山学院中学院と高等学部英語師範科に学び、1925年に成績優秀者に与えられる銀時計を拝領して卒業した。その後、1929年3月、九州帝国大学法文学部英文科を卒業した。その年の5月には、関東学院高等商業部講師、10月には、相川羔子と結婚、相川姓を名乗った。1930年には、高商部教授となっている。

第二次世界大戦の期間には、文部省の指導の下で専門学校が整理統合されていた。高商部は青山学院高等学部とともに明治学院専門学校に合流させられた。関東学院は高商部に代わり航空工業専門学校を新しく設立し、白山源三郎先生が校長となり、相川先生は教頭となった。まもなく白山先生は徴兵されたために、相川先生が校長事務取扱となって終戦に至った。

相川先生は徴兵されることはなかった。戦時下で坂田祐学院長を補佐して関東学院を守る重い責任を担った。英文で書いた著書『戦意なき愛国者』の中でその時期の苦難を記している。

1937年4月に昭和天皇の「御真影奉戴」があり、正門から本校舎までの通路に学生と教職員全員が並び最敬礼をもって迎えた。その夜は、相川先生が当直としてこれを警護した。学校行事のすべてにおいて「宮城遥拝」が行なわれるようになった。学生たちの学友会は「報国団」と改称を命ぜられた。相川先生は航空工

**Professor Dr. Takaaki Aikawa (1905-1995) — the Promoter of Women's Education in the Kanto Gakuin School System —**

Immediately after World War II, the board of trustees of the Kanto Gakuin School System decided to start the education of women. They reflected seriously over Japan's male-dominating, pre-war society and militaristic fascism. They thought that men were responsible for the wars of the past and that women must play a leadership role in forming a new democratic Japan. This idea was in accord with Japan's New Constitution. In the new constitution men and women were endowed with equal rights, and women acquired the right to vote.

Dr. Aikawa was elected head of the women's academy first in 1946 and then the women's junior college in 1950. Since the beginning of the women's education at Kanto, he proved his competent and tireless leadership in this field. He was the head of the women's college for twenty-six years. He was actually an effective administrator and influential promoter of women's

education in the Kanto Gakuin School System. He was appointed president of Kanto Gakuin University in 1967. Because of the serious days of student revolt, he had to leave the position in 1968. Dr. Aikawa was born a son of a Baptist minister in Tokyo in 1905. He graduated from Aoyama Gakuin College, a Methodist school in Tokyo, and entered Kyushu Imperial University in Fukuoka. Following graduation from the university, he began teaching in Kanto Gakuin Commercial College which started in 1927 in Yokohama. His brother, Professor Kazutaka Watanabe, was an active sociologist and taught in the same college. These brothers were brought up to work for the school.

His father, the Reverend Gen Watanabe, needs to be mentioned because he was one of the first fruits of the work of the Reverend and Mrs. C.H. Carpenter who were sent to Hokkaido, the northern island of Japan, by the American Baptist Missionary Union in 1886. Young Gen Watanabe attended the Carpenter's meeting. But sadly Reverend Carpenter untimely passed away after four months of

service there. Mrs. Carpenter continued the work there and passed away a few years later. But Aikawa's father was greatly impressed with their dedicated lives and noble deaths. He decided to follow their steps and went to Tokyo to attend the newly started Baptist middle school and theological department in 1895. Later he was one of the first trustee members and one-time chairman of the board of trustees of the Kanto Gakuin School System. He deliberately trained his sons to be Christian educators.

Dr. Aikawa wrote a book in English, "Unwilling Patriot" in 1960. It described his terrible experience during World War II. As a Christian professor and head master of a Christian school, he underwent serious difficulties. He was torn between the two loyalties: the warring nation of Japan and his love of Christ. That was his agonizing position of an "unwilling patriot." His unwillingness was against Japanese militarism, the senseless and meaningless war and terrifying totalitarianism that smothered a budding democracy in the 1930's.

In April, 1937 the Imperial portrait was brought to our school. All the pupils and students lined up a deep bow along the drive from the school gate to the entrance of the main building. Thus emperor worship was forced even in the Christian schools. In 1942, draft notices began to come to the students and they were sent to the battle front to die. Dr. Aikawa reluctantly sent them off to war. The remaining students were mobilized to work in the factories under the surveillance of the bullying officers. It was called "Labor Service." He, as the headmaster, had to be with the students who were working hard.

One night he saw some students gathering for the farewell party with potatoes and plain water. One of them was leaving for the battle field. Dr. Aikawa wrote in the book. "I left with tears rolling down my face as I thought of the many young students who were going out, never to return."

service there. Mrs. Carpenter continued the work there and passed away a few years later. But Aikawa's father was greatly impressed with their dedicated lives and noble deaths. He decided to follow their steps and went to Tokyo to attend the newly started Baptist middle school and theological department in 1895. Later he was one of the first trustee members and one-time chairman of the board of trustees of the Kanto Gakuin School System. He deliberately trained his sons to be Christian educators.

Dr. Aikawa wrote a book in English, "Unwilling Patriot" in 1960. It described his terrible experience during World War II. As a Christian professor and head master of a Christian school, he underwent serious difficulties. He was torn between the two loyalties: the warring nation of Japan and his love of Christ. That was his agonizing position of an "unwilling patriot." His unwillingness was against Japanese militarism, the senseless and meaningless war and terrifying totalitarianism that smothered a budding democracy in the 1930's.

In April, 1937 the Imperial portrait was brought to our school. All the pupils and students lined up a deep bow along the drive from the school gate to the entrance of the main building. Thus emperor worship was forced even in the Christian schools. In 1942, draft notices began to come to the students and they were sent to the battle front to die. Dr. Aikawa reluctantly sent them off to war. The remaining students were mobilized to work in the factories under the surveillance of the bullying officers. It was called "Labor Service." He, as the headmaster, had to be with the students who were working hard.

One night he saw some students gathering for the farewell party with potatoes and plain water. One of them was leaving for the battle field. Dr. Aikawa wrote in the book. "I left with tears rolling down my face as I thought of the many young students who were going out, never to return."

service there. Mrs. Carpenter continued the work there and passed away a few years later. But Aikawa's father was greatly impressed with their dedicated lives and noble deaths. He decided to follow their steps and went to Tokyo to attend the newly started Baptist middle school and theological department in 1895. Later he was one of the first trustee members and one-time chairman of the board of trustees of the Kanto Gakuin School System. He deliberately trained his sons to be Christian educators.

Dr. Aikawa wrote a book in English, "Unwilling Patriot" in 1960. It described his terrible experience during World War II. As a Christian professor and head master of a Christian school, he underwent serious difficulties. He was torn between the two loyalties: the warring nation of Japan and his love of Christ. That was his agonizing position of an "unwilling patriot." His unwillingness was against Japanese militarism, the senseless and meaningless war and terrifying totalitarianism that smothered a budding democracy in the 1930's.

In April, 1937 the Imperial portrait was brought to our school. All the pupils and students lined up a deep bow along the drive from the school gate to the entrance of the main building. Thus emperor worship was forced even in the Christian schools. In 1942, draft notices began to come to the students and they were sent to the battle front to die. Dr. Aikawa reluctantly sent them off to war. The remaining students were mobilized to work in the factories under the surveillance of the bullying officers. It was called "Labor Service." He, as the headmaster, had to be with the students who were working hard.

One night he saw some students gathering for the farewell party with potatoes and plain water. One of them was leaving for the battle field. Dr. Aikawa wrote in the book. "I left with tears rolling down my face as I thought of the many young students who were going out, never to return."

service there. Mrs. Carpenter continued the work there and passed away a few years later. But Aikawa's father was greatly impressed with their dedicated lives and noble deaths. He decided to follow their steps and went to Tokyo to attend the newly started Baptist middle school and theological department in 1895. Later he was one of the first trustee members and one-time chairman of the board of trustees of the Kanto Gakuin School System. He deliberately trained his sons to be Christian educators.

Dr. Aikawa wrote a book in English, "Unwilling Patriot" in 1960. It described his terrible experience during World War II. As a Christian professor and head master of a Christian school, he underwent serious difficulties. He was torn between the two loyalties: the warring nation of Japan and his love of Christ. That was his agonizing position of an "unwilling patriot." His unwillingness was against Japanese militarism, the senseless and meaningless war and terrifying totalitarianism that smothered a budding democracy in the 1930's.

In April, 1937 the Imperial portrait was brought to our school. All the pupils and students lined up a deep bow along the drive from the school gate to the entrance of the main building. Thus emperor worship was forced even in the Christian schools. In 1942, draft notices began to come to the students and they were sent to the battle front to die. Dr. Aikawa reluctantly sent them off to war. The remaining students were mobilized to work in the factories under the surveillance of the bullying officers. It was called "Labor Service." He, as the headmaster, had to be with the students who were working hard.

One night he saw some students gathering for the farewell party with potatoes and plain water. One of them was leaving for the battle field. Dr. Aikawa wrote in the book. "I left with tears rolling down my face as I thought of the many young students who were going out, never to return."

service there. Mrs. Carpenter continued the work there and passed away a few years later. But Aikawa's father was greatly impressed with their dedicated lives and noble deaths. He decided to follow their steps and went to Tokyo to attend the newly started Baptist middle school and theological department in 1895. Later he was one of the first trustee members and one-time chairman of the board of trustees of the Kanto Gakuin School System. He deliberately trained his sons to be Christian educators.

Dr. Aikawa wrote a book in English, "Unwilling Patriot" in 1960. It described his terrible experience during World War II. As a Christian professor and head master of a Christian school, he underwent serious difficulties. He was torn between the two loyalties: the warring nation of Japan and his love of Christ. That was his agonizing position of an "unwilling patriot." His unwillingness was against Japanese militarism, the senseless and meaningless war and terrifying totalitarianism that smothered a budding democracy in the 1930's.

In April, 1937 the Imperial portrait was brought to our school. All the pupils and students lined up a deep bow along the drive from the school gate to the entrance of the main building. Thus emperor worship was forced even in the Christian schools. In 1942, draft notices began to come to the students and they were sent to the battle front to die. Dr. Aikawa reluctantly sent them off to war. The remaining students were mobilized to work in the factories under the surveillance of the bullying officers. It was called "Labor Service." He, as the headmaster, had to be with the students who were working hard.

One night he saw some students gathering for the farewell party with potatoes and plain water. One of them was leaving for the battle field. Dr. Aikawa wrote in the book. "I left with tears rolling down my face as I thought of the many young students who were going out, never to return."



いた。その使う語彙も難解なものであった。

高谷道夫教授は、かつての高商部の同僚であり、南区庚台の近隣に住んでおり、戦時下に明治学院に移り、後に桜美林大学で教えられた。高谷教授は相川先生についての人物評価を書き残された。最後にこれを紹介しておこう。

「水あり、そして火あり」これはご尊父の性格であったが、また相川先生の性格を表現するにもっとも適切な句であるかもしれない。「昭和4年5月、九州帝大出身の若い物静かな英文学専攻の相川先生が高商部の講師として就任された。その頃、社会事業科の科長として学内における学生の信望を集めていた渡部一高教授は相川先生の長兄であったが、一高氏の竹を割ったような明るい、そして実際のな性格とは相反して、相川先生の思索的な理性的な、そしてまた文学的な性格のゆえに兄弟とは思われないほどであった。兄弟お二人とも英文をよくしておられるが、長兄の方はことに語学の天才であった。

しかし、相川先生は就任まもなく、高商部のゼミナル活動に深い感化を与えたらしく、ことに、一面マルキシズムの唯物弁証法を理解せられると共に、他面、西田哲学に深く傾倒して一種の『相川哲学イズム』を学内に発散せしめた。関東学院商学に論文をのせ、高商部の学生新聞に健筆を振るわれた。」

「昭和20年5月29日の横浜空襲で、三春台の専門学校校舎は戦禍にみまわれ、その間、相川先生は古賀教授と、よくこれに対処した。終戦後、白山校長が帰ってこられるまで、坂田院長の指示を受けて、

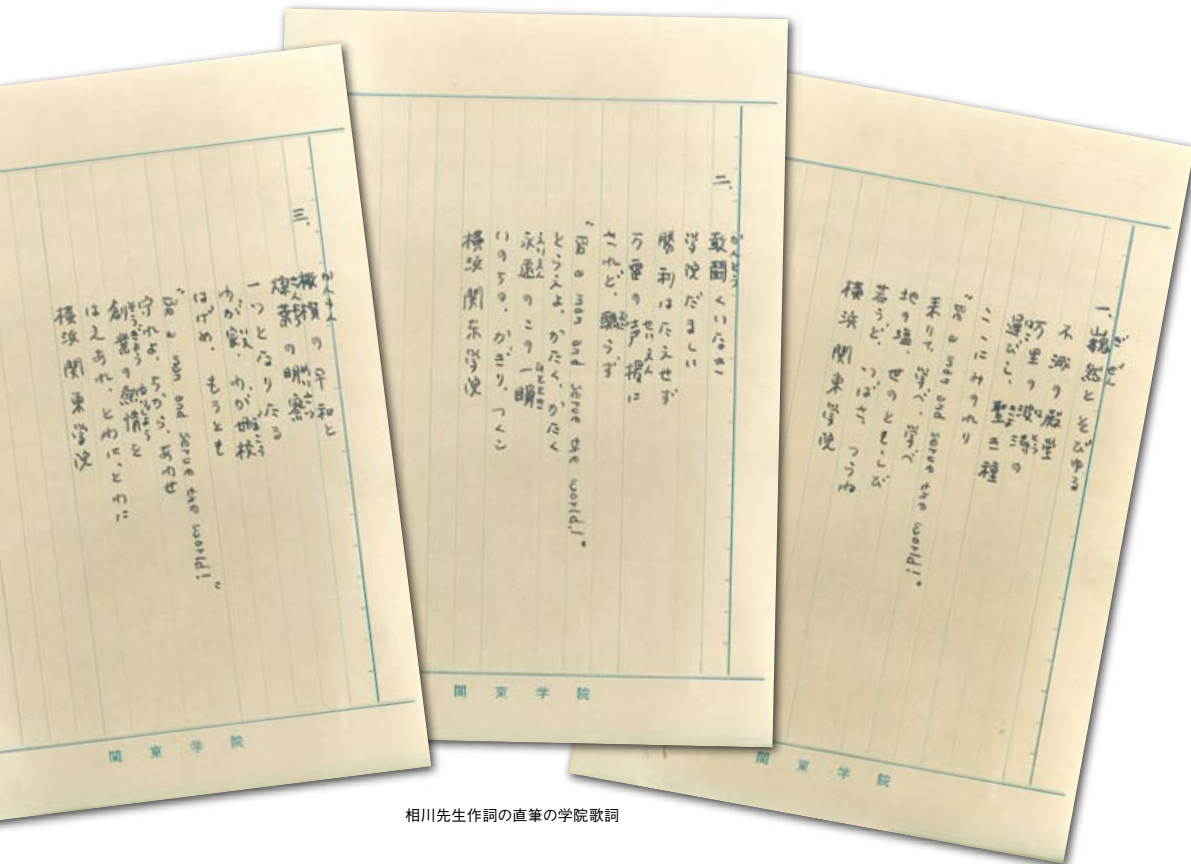
復興のために力を尽くし、現在の六浦の広大な地所の交渉にも当たられたが、英文学者の相川教授が哲学的思索の人としてではなく、実際のな智略断行の教育行政者としての一面を発揮された。」

高谷教授は相川先生の中に「水のごとき冷厳」と「火のごとき焼き尽くすはげしさ」を見ているのが興味深い。先生を知る人はこれに首肯されることであろう。相川先生は「わが生と死と愛と」と題する講演の中で生涯を振り返り、こう述べた。

「私は元来語学の教師の素質を持っていない。そのことは卒業生の中で、私のため英語が上手になったという者は1人もいないことわかる。多少とも私の影響を受けた者がいるとするならば、それは私の考え方、大げさに言えば哲学である。私もそのことに誇りを感じている。しかし私は私の生涯を悔やんでいないことも事実である。私は存分に生きた。そして存分とは云えぬ迄も、かなりの珠玉の時を持つことが許されたのである。」

先生は、若いときから学校の役職を歴任されたので、ある人たちには冷たくお高止まっていると感じられていた。しかしご自分の限界をも知っておられたようである。しかも晩年の使徒パウロのように、先生は均衡の取れた謙虚さと自負を備えていたことがわかる。

「私は戦いを立派に戦い抜き、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠が私を待っているばかりである。」(テモテへの第2の手紙4章7、8節) たしかにこの言葉があてはまる。



相川先生作詞の直筆の学院歌詞



先生が執筆した四冊目の著作



# 学院役員・教職員人事

## Employed and Retired Members List of Kanto Gakuin Personnel

1 New Member of the Board of Trustees  
1 New Faculty Member Employed Temporarily  
3 New Assistant Staff Employed Temporarily  
2 New Office Clerks  
3 New Contract Office Clerks  
1 Retired Member of the Board of Trustees

①最終学歴 ②所属 ③就任年月日

## 教職員人事



新任嘱託教務職員

太田 芳子

おおた よしこ  
①関東学院大学工学部  
②大学 工学部情報ネット・メディア工学科 技師補  
③2007年(平成19年)9月1日



新任契約講師

久保田 尚子

くぼた たかこ  
①青山学院大学文学部  
②小学校 教諭  
③2008年(平成20年)1月1日

①最終学歴 ②現職 ③就任年月日(2008年3月31日現在)

## 新任役員



井上 枝一郎

いのうえ しいしろう  
①慶應義塾大学大学院社会学研究科  
②理事  
③2007年(平成19年)12月20日

## 退任役員

①役職  
②退任年月日  
(2008年3月31日現在)

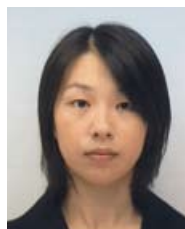
有田 匡孝

ありた まさたか  
①理事  
②2007年(平成19年)10月31日



佐藤 純

さとう じゅん  
①関東学院大学工学部  
②大学 工学部機械工学科 実験助手  
③2008年(平成20年)1月1日



鹿島 澄子

かしま すみこ  
①関東学院大学工学部  
②大学 工学部機械工学科 技師補  
③2007年(平成19年)11月1日

①所属 ②就任年月日

## 職員人事



岡本 真由美

おかもと まゆみ  
①小学校 事務室  
②2007年(平成19年)9月1日



北見 隆子

きたみ たかこ  
①大学 工学部庶務課  
②2007年(平成19年)9月1日



新任嘱託職員

佐藤 理恵

さとう りえ  
①中学校高等学校 事務室  
②2007年(平成19年)8月1日



伊東 祐亮

いとう ゆうすけ  
①大学 入試課 書記  
②2007年(平成19年)11月1日



新任職員

鈴木 茂

すずき しげる  
①大学 教務課 書記  
②2007年(平成19年)10月1日

## 30歳から始まった学院での青春時代!

国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院 看護部長

平田京子 氏

(聞き手 関東学院 総務部 広報課長 瀬沼達也)



**瀬沼** お仕事を持ちながら、関東学院大学 第二部(夜間部)に通学されたと同っておられます。「ご入学のいきさつを伺えますか。」

**平田** 私が、関東学院大学の夜間部に入学したのは1981年です。当時は、横浜市立大学で看護婦養成の教員をしておりました。横浜市立大学には、2005年に4年制の医学部看護学科が設立されましたが、かなり前から看護大学を設立する構想がありました。そのため教員たちには、最低でも学士を取っておくべきだと当時の医学部長が盛んに言っていたこともあって、慶応義塾大学の通信教育を受けてみたのですが、スクーリングへの参加がままならなくて、夜間大学への編入を考えていたのです。たまたま甥が、関東学院大学の建築学科に通っていて夜間部の情報を提供してくれたのです。できれば、1年生からの入学がベターだという周りの勧めもあり、30歳で1年生に入学しました。

その当時は、学生数約200名の中で女性ばかりでした。職場の仲間からも、勤務しながら夜間大学に通学するというのは超人的に思えたらしく、私は結婚もしていましたからひどく驚かれました。ただカリキュラムを見ると、結構休みがありますから7ヶ月間集中的に頑張るといふ計画を立てました。当時は社会人が少なく、昼間の大学に失敗した人とか専門学校から来た人が多く、18歳の学生集団でしたから、多分私が一番年長だったと思います。

**瀬沼** 実際に学生になってみての感想を聞かせてください。

**平田** 私が関東学院大学を気に入ったの

は、クラス別にアドバイザーがついていたことです。マンモス大学なのですがアドバイザーグループのようになっていて、小集団で密な授業が行われていたからです。基本的に「個」に焦点を当てた教育がされていて、クラスを大事にする精神が好きでした。自分の教職の時にそれを活用して、担任制からアドバイザーグループにしました。とにかく、関東学院大学は掲示板一つで数百人の学生が動く。授業の変更とか教室の変更とか、必ず7号館の掲示板を見て動くというすばらしいシステムを持っていました。そういうのが専門学校にはありませんから、私は本学の、このやり方をその後の自分の仕事の中に取り入れていきました。

**瀬沼** 看護学と違う経済学という分野で学ばれて良かったことは何ですか。

**平田** 私は、経済学部でしたが経済学に関係のない科目を多く履修していました。卒論も、経済学に関係のない社会心理学でコミュニケーションに関するものでしたが、瀧澤正樹先生のゼミで取らせて頂きました。それでも、経済というのは全部の分野に関係があるし、特に教養の2年間だけでなく、3、4年目は本当に勉強になりました。4年間奨学金を受け、自分と一回り違う人たちと楽しく勉強できました。関東学院大学の男子学生は優しくて、同級生の面倒をよく見てくれて、本当にアットホームな雰囲気でした。ですから年は違うのですが、卒業後も結婚式に出席したり交流が続いています。講義に関しても、与えられるのではなく能動的に学習できるというのが良かったですね。私は意識して新聞を読ん

ていたが、ある意味では専門馬鹿と言いますか、一般的な常識や政治・経済社会情勢にはかなり疎かったと思います。夫は経営関係の仕事だったので、大学への通学で政治や経済のことで夫と話ができる、夫婦で語り合うことができようになったのが嬉しかったですね。

**瀬沼** 学習の面で印象に残っていることがあれば教えてください。

**平田** 特に歴史学の小林照夫先生、石崎悦史先生の講義時間など、専門の授業を肉声で受けられて感動した記憶があります。一番印象に残っているのは統計学です。分厚い統計学の本が教材なのですが、本だけ読むと難しく解らないのに、授業では、必ず関東学院大学の学生と東大生が比較されるので興味深く、不思議と簡単に理解できました。それまで統計学は苦手という意識があったのですが、この教授法に接して理解力が倍増されたと思います。関東学院大学の各授業は、一方通行ではない対話重視の学生参加型なので実に楽しかったですし、基本的に学ぶことの楽しさを教えられた4年間でした。現在の横浜南共済病院の蜂谷将史院長が、関東学院大学で初めて講義「体育衛生」を担当したときの第一期生が私でした。それが今の職場を知る初めての機会となりました。

それから私が初めて知ったのが、飲み物OKのクラスがあるということでした。みんな食べる時間がないので、音のないものと迷惑をかけないものならOKという授業がありました。私は自分の学校では実現できませんでしたが、働

業でそれを取り入れましたら、出席率がよくなくて誰も遅刻しなくなりました。そうした思いやりも関東学院大学で学ばせて頂きました。

**瀬沼** 大学卒業後にまた大学院修士課程に進学された動機は何だったのですか。

**平田** 関東学院大学の修士に進みたいという気持ちはあったのですが、その時は決断できず卒業しました。その後、アメリカに行く機会があって、アメリカの看護管理者が看護学の修士ではなく、栄養学の修士だったり、福祉学だったり、いろいろな修士とかドクター資格を取得しているのを知りました。アメリカでは夜間や日曜日なども学校に通い、単位を積み重ねて修士のライセンスを取れるシステムがあったからです。修士を持った看護部長たちの仕事振りを見た時に、経営感覚の違いに興味を持ちました。例えば、横浜南共済病院などもそうですが、いつも忙しい病棟とそうでない病棟があります。日本の法律では、病棟別にナースを

administration while seeing and hearing what nursing managers were doing at their work place in the US. In 1995, after returning to Japan, she went back to Kanto Gakuin to pursue a master's degree. She studied in Professor Hanaoka's Seminar and wrote a thesis entitled "Motivation of Mid-Level Managers at Hospitals." After completing the master's course, she continued study toward her doctor's degree. In the second year of the master's course, she was promoted to Nursing Manager at Yokohama Minami Kyosai Hospital, which had been her long-cherished dream. Since then, making the best use of what she has learned at Kanto Gakuin, she has been playing a leading role in the management at that hospital.

**Youthful Days at Kanto Gakuin University: New Start at Age 30**  
While working as a nursing teacher at Yokohama City University, Kyoko Hirata started taking a night course at Kanto Gakuin University in March 1981 at the age 30 with the aim of stepping up her career as an executive faculty member. At the university, she studied economics rather than nursing science, her specialty. Enjoying the campus life with her classmates, who were more than ten years younger than her, she came to appreciate both the depth and breadth of economics. After graduating in 1985, she resumed her work. When she visited the USA in a training program, Ms. Hirata became interested in business

配置する数が決まっているからです。アメリカで私が、数ヶ所行った病院の看護部長たちは、1,000床ほどの病院でも、朝8時に始まったら夕方5時に全員の職員が、病院を出られるように効率的に人員配置を変えるシステムをつくるのが部長の仕事だと言うのです。私は管理という仕事が面白そうだと思い、帰ったら看護管理の勉強をするという目標を見つけました。帰ってきたらちょうど関東学院大学に経済学研究科の経営学専攻、社会人向けの昼夜開講制という土曜日中心に履修できる大学院ができました。1期の時に声をかけられたのですが、私は、臨床に出たくなくて神奈川県に移ったこともあり、1期を見送り2期で受けさせて頂きました。

**瀬沼** 修士の最後の一年はトップマネージメントの地位に就きながら通学された、その旺盛な向上心に感服します。

**平田** 入学時、自分なりに考えた研究テーマは「病院の中堅管理者のモチベーション」でしたが、誰に指導教授をお願いしたらいのか分からなかったのですが、花岡菖先生のゼミに入れて

もらいました。その時はもう40歳を過ぎていました。その頃に横浜南共済病院から看護部長という話が持ち込まれました。いろいろ考え迷って、花岡先生に相談したら「スリルがあるよ」という一言と、「隣だから幾らでも相談に来ていいよ」と言ってくれたので決断ができました。横浜南共済病院に赴任した私に、前院長が「論文を書く姿をスタッフに見せる看護部長にならなさい」と言ってくれました。実際はそんなことはできなかったのですが、私は週末だけ泊まって論文を書きました。何とか1年で論文を書きあげましたが、自分なりに物足りない部分があって、そのままドクターコースに進ませてもらいました。ドクターコースは花岡先生が担当されなかったのですが、小林正彬先生に指導して頂きました。

**瀬沼** トップマネージメントをやっているとして本学での勉強が役立っていますか。

**平田** 関東学院大学には、経営における一般企業の事例が沢山ありました。ですから、横浜南共済病院で悩んだことを指導教授に相談すると、まずは日本の文献を探して、それでなかったら海外の文献を探しなさいと言われました。それが、全部一般企業の文献なのですが病院の経

営管理にも大いに役立ったのです。病院の組織というのは企業の後追いで、やっとならば叫ばれるようになりまして。お金を頂いているのにお礼を言うのが玄關に揃って、お待ちしておりましたぐらいでなければ病院が成り立たないくらいになっていきます。私たちが学生の頃は、看護師は経営と関係のない時代だったといえますが、今は看護師もコスト感覚を持ち、顧客満足の視点を持たなければならぬ。そういう意味で、本学での勉強は本当に役立っています。

**瀬沼** 建学の精神を端的に表した校訓「人になれ 奉仕せよ」と看護は相通じるものがありますね。

**平田** そのとおりです。看護というのは人が相手ですので、人間性豊かで人の痛みがわかる人でなければなりません。ですから「人になれ 奉仕せよ」という校訓の基で育てられる関東学院大学の学生が、看護の仕事に就いてくれればベストだと思っています。本学は私どもの病院と隣接しているので、ぜひ看護学科をつくって欲しいと理事長先生にお願いしたのですが、何とか実現できないものでしょうか。(笑)

鎌谷将史病院長とともに



**平田京子(ひらた・きょうこ)氏  
プロフィール**

- 1949年 長崎県佐世保市出身
  - 1971年3月 国立習志野病院付属高等看護学校卒業
  - 1972年3月 聖母助産婦学院(現聖母女子短大専攻科)卒業
  - 1972年4月 国際聖母病院勤務
  - 1974年4月 横浜市立大学医学部附属高等看護学校勤務
  - 1983年4月 神奈川県衛生専門看護学校助産婦学科勤務
  - 1985年3月 関東学院大学経済学部第二部経済学科卒業
  - 1986年4月 神奈川県立成人病センター(現神奈川県立ガンセンター)勤務
  - 1991年4月 神奈川県立看護教育大学校専門看護学科勤務
  - 1996年4月 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院看護部長就任
  - 1997年3月 関東学院大学大学院経済学研究科経営学専攻修士課程修了(MBA取得)
  - 2000年3月 関東学院大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程単位取得満期退学
- (現在に至る)



# 三世代が関東学院に学ぶ 家族を結びつける絆の言葉



久保田和彦さん



増田眞里子さん



増田浩也さん



下川絵里菜さん

眞里子さんは小学校3年時に公立校から関東学院に編入されたということですが、当時は旧校舎のころでしたね。  
眞里子 4月に小学校に入学した当時、私はカルチャーショックを受けたような感じだったと思います。公立で呼ぶ日直の事をS・Gと呼び、礼拝堂、ライブラ

リー、造形室、みどりの学校他と、どれも新鮮に思え、別世界に来たような感覚でした。特にS・Gは、1日の奉仕活動の心構えを、朝、全校の前で誓いの言葉を宣誓するのですが、私はS・Gが近づくと、帰宅後も家で誓いの言葉を練習し、奉仕活動を楽しむにもしていました、

誇りを持っていました。校舎は木造の平屋でした。公立校が1クラス50人ぐらいの時代に、35〜6人と少人数で、家庭的な学校でした。生徒たちの雰囲気はおしゃれで垢抜けているなと思いましたね。  
関東学院は父の母校でもあり、生前父は学院を大変愛しておりました。私が小学生の時、横浜銀行阪東橋支店に勤務して忙しい日々を送っていた父ですが、運動会や保護者会には、必ず出席してくれました。あのころは保護者会といえど、お母様が出席なさるご家庭がほとんどでしたので、私は子供心にも恥ずかしく、母に出席してほしいと頼んだこともあるんですよ。でも「お父さんが楽しみにしているから」と母には断られました。それぐらい父はことあるごとに学院に足を運び、それを楽しみとしておりました。  
旧校舎建て替え事業の際にも、銀行の仕事をしていたお父様にはお力添えいただいたとうかがっております。  
眞里子 そうですね。どんなに仕事が忙しくても、学院のことになると、尽力を惜しみませんでした。  
お父様が、娘である眞里子さんを関東学院に学ばせたように、眞里子さんも

娘の絵里菜さんを小学校から本学院に入学させられましたね。

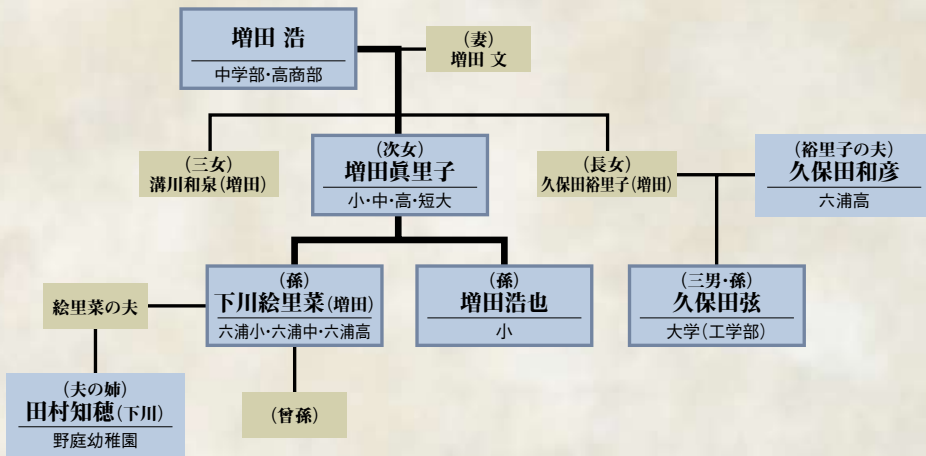
眞里子 私も父と同じ考えで、関東学院にさえいれておけば、大丈夫という安心感があったのです。娘は六浦に通っていたので、私の時代とは、雰囲気もだいぶ変わっていましたが、あちらにはあちらのどこかのんびりした独特の雰囲気がありますね。娘が入学してからは、同級生の親御さんともお付き合いするようになりました。親交を深めさせていただきました。

絵里菜 私は音楽大学へ進んだのですが、小学校時代の恩師である田上雅章先生に幼い頃から習っていたピアノを認めてもらい、伴奏の役目をさせていただけいたことが、音楽を志す自信ときっかけを与えてくれたのだと思います。日々の朝



増田浩さん

三世代が関東学院に学ぶ



の礼拝で伴奏したことが今でも思い出されます。公私共に今でも私を支えてくださっている八巻朱実先生と出会えたのもこの学院でした。大学時代に教育実習で六浦中高校に戻ってきたときもお世話になりました。そのとき六浦小学校にも立ち寄ると、田上先生が杖をつけて迎えてくださって、本当に感謝しています。

——田上先生は神学部の嘉手納二郎先生からバイオルガンを学んだと聞いてい

ます。先生は残念ながら召天されましたが、小学校で行われたお別れ会には約1,500人が参列したそうです。

ところで本校の卒業生で、讚美歌を歌ったことをよい思い出とされている方は多いですね。好きだった歌は今でも覚えていますか。

絵里菜 312番が好きです。「慈しみ深き…」の曲は、我が家ではみんなが好んで、私の結婚式でも歌いました。

浩也 僕も6年生のときに聖歌隊のメンバーになり、クリスマスのために放課後残って練習をしたことを覚えています。僕は中学からキリスト教とは関係のない学校に進学したのですが、関東学院での思い出という

う日本情緒豊かな地域の中学からキリスト教の関東学院高校に進学したので、宗教的な雰囲気は最初は少し戸惑いました。けれど私は外国映画が好きで、どこかしら洋画の風情ある学校の雰囲気すぐに気に入ってしまいました。雰囲気だけでなく、当時白根新治先生に聖書を教えていただいたのですが、初めての授業で『ローマ人の手紙』を読んだことが印象に残っています。

——よく覚えていらっしゃるんですね。

和彦 白根先生はお話が上手で、つい引き込まれてしまうのですよ。

——先生は今、金沢文庫で牧師をしてい

らっしゃいます。

和彦 お元気でなによりです。一度お訪ねして、また話を伺いたいものです。当時は高校生でしたけれど、キリスト教や聖書に安らぎというか、癒しを感じました。今でも旅行先などで小さな教会を見かけると、ほっとします。今の若い人もクリスマスやバレンタインデーなど、キリスト教の雰囲気になれることも多いと思いますが、そういうことをきっかけにして、聖書の世界に足を踏み入れるのもよいのではないのでしょうか。教科書の勉強ばかりではない学院の教育方針の良さは聖書からの学びにあると思います。

——和彦さんは高校から学院に入学されたそうですが、現在は高校から募集はしていないのですけれど、入学当初、学院にはどのような印象を持たれましたか。

和彦 自分の時代も、募集人数は少なかったですね。鎌倉とい

と、まず讚美歌やキリスト教的なイベントのことが浮かびます。学院は授業にも特色があったと思います。とくに社会科は教科書に縛られず、先生独自の教え方で生きた歴史を教えてくださいました。その影響で「歴史散步部」というクラブに入り、三春台や横浜方面にでかけて歴史を感じました。大人になった今でも趣味としてですが、歴史は好きですね。



当時の三崎寄宿舎を背景に中学部での集合写真(三列目の右から五番目が増田浩さん)



高商部卒業記念のスナップ(右から二人目が増田浩さん)



高商部時代のラグビーに打ち込む増田浩さん





社会に役立つ人に育ってもらうためにも、後輩たちには聖書の時間を大切にしたいですね。

——ところで眞里子さんは中学校高校でマーチングバンド部に所属していたそうですが、本学はこの分野では草分け的存在なのですよ。

**眞里子** 当時、関東学院にはプラスバンド部の中に、マーチングバンドとバトンド部があったのです。私はマーチングバンドに大変造詣の深かった、広岡穰先生に教えを受けました。あのころは女子がミニスカートにブーツでバトンをまわすなんて、他校では考えられない時代でした。私たちはまさしく草創期に活動していたので、広岡先生とともに他校や社会人のチームに、講習会などで教えるのを手伝ったこともあります。大阪万博にも

参加したんですよ。スポーツ好きの父が大変応援してくれたことも記憶に残っています。部活の練習は大変厳しいものですが、そういうときは父は、ともに苦しさを乗り越えていく仲間を大切にしながら、よく申しております。学院の思い出とともに、マーチングバンドは私の青春そのものでした。当時のメンバークことは、今でも一人ひとりの顔が思い浮かぶようです。

——平成17年に他界された浩さん(眞里子、和彦の父)はラグビー部に所属されていたとうかがっています。

**眞里子** 父は関東学院ラグビー部を誇りに思っていました。勝っても負けても試合をいつも楽しみにしていたものです。亡くなる4ヶ月ほど前に、姉の家に向かう途中、学院のラグビー部練習場を通りかかることができましたが、父はそれは感慨深げにグラウンドを眺めておりました。銀行員として精力的に仕事をの上で、精神的にも体力的にもその基盤を築いてくれたのが、ラグビーだったようです。戦争という大変な時期に青春を送っていた父ですが、ラグビーは体を鍛えるだけでなく、先輩後輩との人間関係の

結び方や努力することの大切さなど、人としての生き方というものを学んだと言っております。とりわけ仲間との友情は何ものにもかえがたいものだと言っております。ラグビーと学院そして聖書が父の心の支えだったのです。

思えばあの時代の父親にはある意味で威厳があつて、父の場合も私が子供のころには教育やしつけという点では大変厳しく、とくに人様に迷惑をかけるようなことは断固として許さない教育方針でした。また反面、温かくやさしい父で、エリートであるよりも、人間性の豊かさ、確かさを重要と考える人でした。父は、機会があるごとに校訓「人になれ 奉仕せよ」や聖書の御言葉の意味を家族に説明しておりました。我が家は古くから伝わる家系で、地元の人々との付き合いも深く、父はお寺や神社の世話役として奉仕しておりましたが、私が物心ついた頃には、大切な祖先の仏壇と共に、いつも聖書がそばにありました。「人になれ 奉仕せよ」と聖書の言葉は父の生活の信条であり、家族を結びつける絆でもあったのです。

(インタビュー●広報課長・瀬沼達也)

## A Family Living by Kanto Gakuin's Motto

Hiroshi Masuda is a graduate from Kanto Gakuin Junior and Senior High School where he belonged to the rugby club. Through activities in the rugby club, he learned how to build relationships with others and how people should live. In particular, he learned firsthand the importance of friendship with his team members. According to him, rugby, Kanto Gakuin and the Bible gave him emotional support. After graduating from Kanto Gakuin, he started working for the Bandobashi Branch of the Bank of Yokohama. He has never failed to attend his daughter's school sports day events and parent's associations. He has provided support in the new school building project to replace the old one, showing his strong love for his alma mater. His second daughter, Mariko Masuda, graduated from the elementary school, junior and senior high school, and junior college of Kanto Gakuin. As a member of the marching band, under the leadership of Mr. Hirooka, her teacher, Mariko helped him teach lessons at other schools, adult teams, and lectures. She also performed at the Osaka Expo in 1970. Marching music

was her passion in her youth. Kazuhiko Kubota, the husband of Hiroshi's oldest daughter, graduated from Kanto Gakuin Mutsuura Senior High School. Being a fan of foreign films, Kazuhiko liked the "western" atmosphere of Mutsuura Senior High School coming from Kamakura. At high school, Mr. Shirane taught him the Bible class. Erina Shimokawa, Mariko's daughter, graduated from Mutsuura Elementary School and Mutsuura Junior and Senior High School. After graduating from the senior high school, she entered a music college. When she was an elementary school child, Mr. Tagami, her teacher, recognized her talent in playing the piano. Playing the piano at chapel every morning at school is a good memory for her. Erina still feels grateful to Mr. Tagami. Hiroya Masuda, Erina's brother, was a choir member when he was a sixth-grader in the elementary school. He also joined the "History Walking Club." He remembers activities of the club most clearly. He visited Miharudai, Minami-Ward, Yokohama and went about Yokohama with other club members to study the history.

- 増田 浩  
1921年 横浜生まれ  
1938年 関東学院中等部卒業  
1940年 高商部卒業
- 増田眞里子  
1952年 横浜生まれ  
関東学院小学校卒業  
中学校高等学校卒業  
女子短期大学英文科卒業
- 増田浩也  
1980年 横浜生まれ  
関東学院小学校卒業
- 下川絵里菜(増田)  
1982年 横浜生まれ  
関東学院六浦小学校卒業  
六浦中学校高等学校卒業
- 久保田和彦  
1947年 横須賀生まれ  
関東学院六浦高等学校卒業
- 久保田弦  
1980年 横須賀生まれ  
関東学院大学工学部卒業
- 田村知穂(下川)  
1972年 横浜生まれ  
野庭幼稚園卒園



# 新規「学生支援GP」に採択される

## 「校訓に基づく入学前～卒業後までの総合支援」

このたび、本大学は文部科学省の募集する平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」に応募し、下記プログラムが採択されました。

本年度新規に開始されたこのプログラムには、全国の大学等から272件の申請があり、本学を含む70件(大学48、短大11、高専11)が

選ばれました。そのうち私立大学の申請数は、114件で、選定数は、21件(約18%)でした。

2004年4月に開設した学生支援室を中心に、学生の大学生活の充実と多様な学習歴を持つ学生に対するきめ細かな学習支援を行ってきたことの成果をさらに拡充・発展するべく企画したプログラムが評価され、今回の「学生支援G

P」の採択につながりました。

### ●プログラム名

校訓に基づく入学前～卒業後までの総合支援～校訓:「人になれ 奉仕せよ」～

### ●キーワード

校訓、入学前から卒業後まで、学生本位、学生生活、学習活動

### Good Practice Grant Awarded for Student Support Program

Kanto Gakuin University applied for "Student Support GP" sponsored by the Ministry of Science and Education and the following program was selected to receive the grant.

ACSEL (Assistance Center for Student Life and Learning) has been supporting students with various needs since April, 2004. The new GP awarded program plans to improve their activities.

#### Title of the Program:

Comprehensive support through pre-admission to post graduation -School motto "Be a man, Serve the World"

#### Key Words:

School motto, pre-admission to post graduation, student-centered, student life, study and learning

#### Details of the program:

The main theme of this program is to develop and expand the ongoing program at ACSEL. In specific, this program focuses on the following three points:

- (1) Student support, specifically the development of tools for remedial education and holding "All-round Seminar"
- (2) Support of student life, provide occasions for cooperative experiences and spiritual cultivation
- (3) Enhance communication among faculty

### 「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」とは

Good Practice(優れた取組)の略。文部科学省は、各大学などにおける大学改革の取組が一層推進されるよう、国公私立大学を通じた競争的環境の下で、特色ある優れた取組を選定・支援しています。

この新規「学生支援GP」は、学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図るものです。

### プログラムの概要

2004年度に開設された学生支援室では、「人になれ 奉仕せよ」(校訓)、「学生本位の大学づくり」(学長方針)および「受・敬・共・信・誠の考え」に基づいて、教職員(先輩学生や非常勤スタッフも含む)が、校内・学外における学生生活および学習活動を支援してきました。その内容は、メンタルヘルス相談を含む生活相談・支援、聴覚障がい学生の支援および修学支援(主として基礎的科目の補完)にまで多岐にわたります。

この成果を基にして、支援内容を発展させ、さらに充実したキャンパスライフを学生に提供するために、現代社会的ニーズや在学生ニーズを的確に計り、在学生はもちろんのこと、入学前から卒業後までの支援を念頭において検討しました。その結果、(1)リメディアル用教材開発、(2)「何でもセミナー」の実施、(3)メンター養成、(4)障がいを持った学生の対応に関する講習、(5)電子ポートフォリオ、(6)生涯メールアドレスの利用などを軸として、新しい特色ある取組を実施していきます。



### 講演会一覧

・2008/1/11(金) 金沢八景(室の木)  
「[甲子園]夢を追いかけた12年間」(何でもセミナー) レポート 2008.1.29

香山蒼士史氏(駒澤大学附属苫小牧高等学校硬式野球部顧問 前監督)

・2007/12/7(金) 金沢八景  
「スポーツビジネスから見る日米の違い」  
小島克典氏 株式会社スポーツワークス代表取締役  
役/元メジャーリーガー-新庄剛専属通訳

・2007/12/10(月) 小田原  
「友と繋いだ箱根の襷」  
確井哲雄氏 神奈川工科大学陸上競技部監督  
箱根駅伝ほかテレビ解説者

・2007/12/13(木) 金沢八景  
「やりたことを仕事にする やりたいことを目指しての転職」  
遠藤日登思氏 アミューズメントソフトエンタテインメント株式会社

企画制作部 第1企画室 室長 映画プロデューサー  
コラアゲンはいごうまん氏 WAAAAHA本舗お笑い  
セクションWAAAAHA商店所属

・2007/12/14(金) 小田原  
「東京国税局の査察」  
富士原達夫氏 小田原税務署長

・2007/12/17(月) 小田原  
「裁判員制度」  
菊池和史氏 横浜地方検察庁 検事

・2007/12/19(水) 金沢文庫  
「リーダーシップと人材育成」  
高橋喜幸氏 早稲田大学公共政策研究所 教授

(注)この講演会は、文部科学省大学改革推進事業「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に沿って開催されたものです。今後も様々な講演会を企画、開催します。

### 具体的プログラム内容

これまでの学生支援室の取組を拡充・発展することが、新たな取組の趣旨です。具体的には、以下3点を柱とした学生支援を目標としてプログラムを実施して行きます。

- (1) 学習支援、具体的にはリメディアル用教材開発(オンライン教材を含む)および学生支援室「何でもセミナー」の実施。
- (2) 学生生活支援と奉仕の精神の涵養および協働経験の場の提供(メンター養成および障がいを持つ学生の支援に関する講習の実施)
- (3) 学生相談の総合窓口として他の部署や学部との連携を円滑にし、在校生や卒業生と大学とをつなぐツールとしてのICT※の利用(電子ポートフォリオおよび生涯メールアドレスの利用による支援)

※ICT:Information and Communication Technology (情報通信技術)の略



# 関東学院 各校 NEWS

大学

ウィンドサーフィン部卒業生2名、ヨット部卒業生が北京五輪日本代表に！



左から富澤・小菅・飯島各選手

ニュージーランドで行われた2008年RS・X級世界選手権(1月13日～19日)で、日本選手最上位に入る快挙を成し遂げた、本学ウィンドサーフィン部出身の富澤選手(2006年度人間環境学部卒)と小菅選手(1996年度文学部卒)が、北京五輪セーリング競技RS・X級の日本代表に決定しました。

卒業後も競技を継続してきた両選手にとって、念願の晴れ舞台であるオリンピック(RS・X級は北京五輪で初めて採用される種目で、両選手とも初の五輪代表候補)。

オーストラリアで行われたレーザ1級世界選手権(2月4日～13日)で、日本人最上位で国別出場枠を獲得した、本学ヨット部出身の飯島選手(2000年度経済学部卒)が、北京五輪セーリング競技レーザー1級の日本代表に決定しました。

小生からセーリングを始め、卒業後も自動車部品などの原型となる木型を作る職人として修業しながら、葉山沖などで練習を積んできた飯島



神奈川新聞社提供

## 小菅 寧子

＜小菅選手プロフィール＞  
小菅寧子(こすげ やすこ) 神奈川県出身  
文学部を経てジェイ・ウィル・パートナーズへ  
2007年 全日本選手権 1位  
2007年 アジア選手権 1位  
2007年 プレオリンピック 8位  
2008年 世界選手権 20位

＜富澤選手プロフィール＞  
富澤慎(とみざわ まこと) 新潟県出身  
人間環境学部を経て関東自動車工業へ  
2007年 全日本選手権 1位  
2007年 アジア選手権 3位  
2007年 プレオリンピック 10位  
2008年 世界選手権 18位

＜飯島選手プロフィール＞  
飯島洋一(いじま よういち) 東京都出身  
経済学部を経て飯島木型へ  
2006年 ドーハ・アジア大会 2位  
2006年 世界選手権 54位  
2008年 世界選手権 64位

電気学会 電子・情報・システム部門大会(大阪府立大学にて2007年9月4～5日に開催)の表彰式にて  
本学学生及び教員が多数受賞!!

平成18年電子・情報・システム部門大会  
奨励賞

この受賞は、部門大会で優れた論文

を発表したことによるものです。

○川口 港(電気工学専攻 冀研究室)  
論文名…「確率共振現象による海馬CAIニューロンモデルでの情報伝送の強化」

平成18年電子・情報・システム部門大会  
特別企画賞

この受賞は、部門大会で特に優れた企画セッションを企画したことによるものです。

○本間英夫(物質生命科学科教授)

企画名…「実装技術と表面処理」

平成18年電子・情報・システム部門大会  
企画賞

この受賞は、部門大会で優れた企画セッションを企画したことによるものです。

○岡本教佳(情報ネット・メディア工学科教授)

企画名…「バイオメトリクス技術とその応用」

○神野健哉(情報ネット・メディア工学科教授)

企画名…「ソフトコンピューティング技術とその周辺」

○永長知孝(情報ネット・メディア工学科准教授)

企画名…「IT・S情報処理」

平成18年電子・情報・システム部門大会  
貢献賞

この受賞は、長年にわたり部門大会実施と活性化に尽力し、広く部門の発展、活性化に大きく寄与した活動が認められたものです。

○宮崎道雄(電気電子情報工学科教授)



2007年度 主な課外活動成績(団体)

クラブ名	大会名	戦績	
強化クラブ	ラグビー部	関東大学リーグ戦1部 2位 関東地区大学野球選手権大会 準決勝敗退	
	硬式野球部	神奈川大学野球秋季リーグ(6季連続、52回目) 優勝 第56回全日本大学野球選手権大会 2回戦 神奈川大学野球 春季リーグ 優勝	
		陸上競技部	第84回東京箱根間往復大学駅伝競争予選会 18位 第39回全日本大学駅伝関東学連選考競技会 19位 関東大学秋季リーグ(1部Bブロック) 第4位
		剣道部	第43回全日本基督教関係大学剣道大会(男子団体) 優勝 第53回関東学生剣道選手権大会 3回戦 第52回春季神奈川県学生剣道大会(女子団体) 優勝 第56回関東学生剣道優勝大会 2回戦 第33回関東女子学生剣道優勝大会 2回戦 神奈川県大学サッカー秋季リーグ戦 優勝 神奈川県知事杯争奪戦 第3位 総理大臣杯神奈川県大会 優勝
アメリカンフットボール	2007年大学対抗軽自動車耐久レース 11位 第34回学生若岳スキー大会(女子) 6位		
	柔道部		第18回東日本選手権大会 ベスト8 神奈川県学生柔道春季大会(5人制) 準優勝 第15回神奈川県大学選手権大会(女子組手) 3位 第15回神奈川県大学選手権大会(男子組手) 優勝 春季関東学生会定期リーグ戦(男子1部) 3位 春季関東学生会定期リーグ戦(団体)女子II部リーグ 3位 第34回神奈川県空手道選手権大会(一般男子団体組手) 優勝
その他のクラブ	自動車部		2007年大学対抗軽自動車耐久レース 11位
	スキー部	第34回学生若岳スキー大会(女子) 6位	
	日本拳法部	第18回東日本選手権大会 ベスト8	
強化クラブ	バスケットボール部	神奈川県学生秋季大会 第3位 神奈川県バスケットボール大会 優勝 第83回関東大学バスケットボールリーグ戦(3部B) 優勝(3部A昇格) 第56回関東大学バスケットボール選手権大会 第3位 神奈川県学生春季大会 優勝	

※なお、各クラブとも未報告戦績については、学生生活課までご報告をお願いします。

2007年度 主な課外活動成績(個人)

クラブ名	氏名	大会名	戦績
強化クラブ	北川 勇次	日本代表	
	中国 真司	7人制日本代表	
	草下 怜	U-21・U-23日本代表候補	
	清水 佑	U-21・U-23日本代表候補	
	朝見 力弥	U-21・U-23日本代表候補	
	笹倉 康誓	U-19日本代表	
	西 直紀	ATQプロジェクト海外派遣選手	
	岩本 瑛吾	第29回丹沢湖マラソン	2位
	川島 祥	よこすかシーサイドマラソン	6位
	井村 光孝	第84回東京箱根間往復大学駅伝競争 第8区(関東学連選抜チーム)	区間 2位
陸上競技部	井村 光孝	日本インカレ 10000m	28位
	谷川 忍	関東インカレ 10000m	28位
	井村 光孝	関東インカレ 10000m	36位
	塩見 武志	関東インカレ ハーフマラソン	43位
	齊藤 雄一朗	関東インカレ ハーフマラソン	55位
	坂本 智史	関東インカレ ハーフマラソン	31位
	井村 光孝	関東インカレ 5000m	29位
	齊藤 雄一朗	焼津みなとマラソン	3位
	平田 裕介	焼津みなとマラソン	8位
	桶田 慧	第43回全日本基督教関係大学剣道大会(男子個人)	ベスト16
強化クラブ	鹿又 春菜	第43回全日本基督教関係大学剣道大会(女子個人)	3位
	橋爪 あずさ	第43回全日本基督教関係大学剣道大会(女子個人)	ベスト8
	清水 里奈	第43回全日本基督教関係大学剣道大会(女子個人)	ベスト16
	鹿又 春菜	第52回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	優勝
	鹿又 春菜	第41回全日本女子学生剣道選手権大会	ベスト32
	玉虫 ひとみ	第52回春季神奈川県学生剣道大会	準優勝
	布施 夏紀	第52回春季神奈川県学生剣道大会	3位
	牧野 智恵	第15回神奈川県大学空手道選手権大会(女子個人組手)	優勝
	小林 樹生	第15回神奈川県大学空手道選手権大会(男子個人組手)	3位
	佐藤 剣治	第15回神奈川県大学空手道選手権大会(男子個人組手)	準優勝
その他のクラブ	丸岡 直人	第15回神奈川県大学空手道選手権大会(男子個人組手)	優勝
	菅原 千明	第34回神奈川県空手道選手権大会(一般女子組手)	準優勝
	丸岡 直人	第34回神奈川県空手道選手権大会(一般男子組手)	優勝
	川田 綾	第34回神奈川県空手道選手権大会(一般男子組手)	準優勝

※なお、各クラブとも未報告戦績については、学生生活課までご報告をお願いします。

クラブ名	大会名	戦績
強化クラブ	卓球部	秋季神奈川県下大学卓球リーグ戦(女子団体) 準優勝 秋季関東学生卓球リーグ戦(女子4部) 3位 春季神奈川県下大学卓球リーグ戦(女子団体) 3位 春季関東学生卓球リーグ戦(女子4部) 2位 平成19年度秋季関東学生ラフル射撃選手権大会 17位 平成19年度春季関東学生ラフル射撃選手権大会 16位 関東学生弓道選手権大会秋季リーグ戦(男子・3部) 2位 関東学生弓道選手権大会秋季リーグ戦(女子・3部) 優勝(2部昇格)
	射撃部	平成19年度春季関東学生ラフル射撃選手権大会 16位
	弓道部	関東女子ヨット春季選手権大会(スナイプ級) 4位 関東学生ヨット春季選手権大会(スナイプ級) 4位 関東学生ヨット秋季選手権大会決勝 スナイプ級 7位
	ヨット部	関東女子ヨット春季選手権大会(スナイプ級) 4位 関東学生ヨット春季選手権大会(スナイプ級) 4位 関東学生ヨット秋季選手権大会決勝 スナイプ級 7位
	カヌー部	関東学生カヌー選手権大会(男子総合) 3位 平成19年度関東学生ソフトテニス秋季リーグ戦 5位 平成19年度神奈川県学生春季リーグ戦 3位
	ソフトテニス部	平成19年度神奈川県学生春季リーグ戦 3位 平成19年度神奈川大学準硬式野球秋季リーグ戦 準優勝 平成19年度神奈川大学準硬式野球春季リーグ戦 準優勝
	準硬式野球部	第49回関東地区大学準硬式野球選手権大会 ベスト8 関東学生ハンドボール秋季リーグ戦(2部) 2位 関東学生ハンドボール春季リーグ戦(2部) 4位
	ハンドボール部	平成19年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦 7部 第8位 平成19年度春季関東大学バレーボールリーグ戦 6部 第7位 神奈川リーグ 2部 第1位
	バレーボール部	関東学生秋季リーグ戦(3部) 1位 関東学生春季リーグ戦(3部) 1位
	バトミントン部	第20回関東学生ラクロスリーグ戦男子3部Bブロック 5位 第20回関東学生ラクロスリーグ戦女子4部Aブロック 3位
ラクロス部	第20回関東学生ラクロスリーグ戦女子4部Aブロック 3位 関東学生ボートセーリング選手権 優勝 鎌倉学生選手権 優勝	
ウインドサーフィン部	優勝	

その他のクラブ

井村光孝(文学部4年)が第84回箱根駅伝で区間2位の力走

2008年1月2日、3日にかけて開催された第84回箱根駅伝において、関東学連選抜チームの復路8区(平塚〜戸塚)を本学陸上競技部の井村光孝

君(文学部4年)が区間2位(1時間6分33秒)の力走をみせました。

5位で受けた襷を3位まで押し上げ、関東学連選抜チーム総合4位に貢献しました。



Kanto Gakuin University Graduates Going to the Beijing Olympics!

Tomizawa (graduate of the College of Human and Environmental Studies, and member of the Windsurfing Club) and Kosuge (graduate of the College of Humanities, and member of the Yacht Club) marked the highest score among Japanese competitors at the RS:X Class World Championship held in New Zealand. They both have been chosen as members of the Japanese Olympic team, going to Beijing.

Also, Iijima (graduate of the College of Economics, and member of the Yacht Club) has been chosen as a member of the sailing team (laser class) for marking top among other Japanese competitors at the World Laser Class Championship in Australia. Let us give them our biggest support.

Awards and Achievements

Imura came in 2nd in the section at Hakone Ekiden.

Awards given from the Institute of Electrical Engineers of Japan (IEEJ) Electrics, Information and Systems Convention, 2006 Encouragement Award Minato Kawaguchi (Electrical Engineering, Mino laboratory) Special Innovative Award Hideo Onhma (Professor, Department of Applied Material and Life Science) Innovative Award: Noriyoshi Okamoto (Professor, Department of Network and Multi-Media Engineering) Kenya Jimno (Professor, Department of Network and Multi-Media Engineering) Tomotaka Nagaosa (Associate Professor, Network and Multi-Media Engineering) Contribution Award Michio Miyazaki (Professor, Department of Electrical, Electronic and Information Engineering)



## Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools

From April 2008, a new six-day-a-week curriculum will start. The addition of Saturday classes will allow students to have more time for core subjects, school events, and club activities. It is hoped that, by well coordinated learning and other activities, the students' sense of belonging to the school will be strengthened. The overall hours for subjects of Japanese, mathematics, English, science and social studies will be increased, ensuring that students acquire basic academic ability and cultivate application ability. Students will be encouraged to learn what is needed for them, to decide their future course of study to achieve their goals.

The junior and senior high schools offer students a variety of opportunities for overseas life and learning experiences, such as a training program in Australia, a science training program in Hawaii, and the interchange program with Chang Jung Senior High School, a sister school in Taiwan.

In February 2008, a new building of about 7,800 m<sup>2</sup> with one underground floor and five above was completed. The building contains a science lab, interview room, and dining room.

## 中学校 高等学校

校長  
富山 隆

### 「Servant Leadership」

本年度は、6月の学校紹介のパンフレット、7月の朝日小学生新聞の全面広告、また10月の学院総合案内誌上に、本校の教育目標に標記の文言を掲げています。学院創立記念礼拝では高野進学院宗教主任により同名の題で意を尽くした説教をいただき、キリスト教学校の教育目標として自信を持って邁進できることを確認いたしました。

「Servant Leadership」とは、君臨



式辞を述べる富山隆校長

するのではなく、他者に共感しその場にいる人々と共に活動することを大切にすることです。これこそが、喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣いたイエス・キリストに倣って生きる核になるからです。その心を発揮するのに必要な力、大学で学び社会で活躍するために中高生の時代に蓄える力を、私たちは学力と考えています。校訓「人になれ 奉仕せよ」は、今現在の自分の今の持ち分を削って他者のために用いよと教えているのではありません。神から与えられたタラント（才能）を中高生の時代に自ら伸ばすという努力こそが、後に、他者に仕えるという結果につながることを示しています。中高生の時代に教科学習に励み、知識と技能を身につけ、学校生活の様々な活動を通してキリストの教えに耕された心と幅広い視野と判断力を身につけた「Servant Leader」を卒業生として社会に送り出すことを継続していきます。

### 「新カリキュラム」

2008年4月から週6日制の新カリキュラムがスタートします。土曜日を授業日とすることで、時間的な余裕を持って教科学習・学校行事・部活動を有機的に展開し、学校への帰

式典風景



制下での時間をかけた準備とその運営を通して、生徒相互が協力して得る達成感は、今まで以上のものとなることと思います。

### 「新棟完成」

1929年に建築された中学校本館は、脈々と受け継がれている伝統を生徒たちの目に映し、心に落ち着きを与えてきました。この環境に加え、2008年2月には、地下1階・地上5階建て、延べ床面積約7,800 m<sup>2</sup>の新校舎が完成し、中学校3学年の一般教室や理科実験室、面談室、食堂などが入ります。既存の施設に加え、歴史を重ねながら新しい時代に向けて進化を続ける充実した施設で、生徒たちは活気に満ちた学校生活を送ります。なお、中学校本館は法人事務局の主導の下で改修・保存に向けた計画が進められています。



レリーフ「光あれ」水船六州 作

**Kanto Gakuin Mitsuura Junior and Senior High Schools**

Thirty applicants participated in a training program in Saanich, British Columbia, Canada for the second year. The study was held at Pacific Christian School where the students learned about Canadian history, culture, geography and environment in English in the morning and visited national parks, mountains, the sea, and other various places in the afternoon. The students particularly enjoyed conversations and sports with Canadian students of the same age group, and they also danced dances from "High School Musical" together. They learned many things in this program and overcame many problems as well. They have grown through their experience in Canada. It is hoped that this training program will serve as a valuable resource for them in their futures.



昨年引き続き、8月1日から14日間、カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州の州都ビクトリア郊外のサニッチにて、生徒30名が参加し研修を行ってまいりました。かつてのイギリスの雰囲気は漂わず美しい建物が多く残るビクトリア、トウモロコシ畑や放牧地が広がり、遠くにアメリカ、ワシントン州の雪を頂く山々を望むのどかなサニッチが今年も

**カナダ短期研修**

**六浦中学校  
高等学校**

英語科  
近藤一仁

今年に引き続き、8月1日から14日間、カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州の州都ビクトリア郊外のサニッチにて、生徒30名が参加し研修を行ってまいりました。かつてのイギリスの雰囲気は漂わず美しい建物が多く残るビクトリア、トウモロコシ畑や放牧地が広がり、遠くにアメリカ、ワシントン州の雪を頂く山々を望むのどかなサニッチが今年も

北)を改めて実感しました。今年に引き続き、8月1日から14日間、カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州の州都ビクトリア郊外のサニッチにて、生徒30名が参加し研修を行ってまいりました。かつてのイギリスの雰囲気は漂わず美しい建物が多く残るビクトリア、トウモロコシ畑や放牧地が広がり、遠くにアメリカ、ワシントン州の雪を頂く山々を望むのどかなサニッチが今年も



我々を迎えてくれました。ただし、この夏は例年よりも寒く、特に朝晩は長袖を着込み、さらに

**「初めて尽くしのカナダ語学研修」**

神谷 岳志 (高一)



僕は8月1日から14日までの二週間、カナダ短期研修に参加しました。成田からカナダに行く間は不安が胸がいっぱいでしたが、カナダに着いた途端そんな気持ちは吹き飛んで

いき、微塵もなくなってしまいました。

カナダの人々は社交的な人が多いと感じました。僕のホストファミリーはとても優しく、その至れり尽くせりのもてなしにとっても感激しました。初めての外国、初めてのホームステイで緊張してこわばっている僕に優しく接してくれました。とてもうれしく感じ、カナダが第二の故郷となりました。

今回の研修を通して、日本とは違う環境で、違う生徒達と勉強する機会を持つことができ良かったと思います。この先、またカナダに行くことがあっても、今回のような貴重な経験はしようと思ってもできないと思います。本当に参加して良かったと思います。

とともに参加し、楽しい時を過ごしていました。帰路の機中で実施したアンケートには「楽しかった」や「もっと滞在したい」の他、「初日は何を話しているか分からなかったが、次第に話している内容が聞き取れるようになってきた」、「もっと英会話の勉強をしておけば、もっとたくさんさんの話ができたのに」、「普段は当たり前だと思いが、忘れていたが、違う国の違う家庭で生活し、親のありがたさがわかった」等、たくさんさんの事を学ぶことができ、さらに様々なことを乗り越え、生徒自身が成長できた研修であったこと



が感じられるものばかりでした。この研修が今後の人生の糧となることを望んでいます。最後に、研修実施にあたり、多くの方々の方々の多大な理解と協力をいただきました。ありがとうございました。







## 六浦小学校

校長  
島田正敏

### 「アブラハムの会」とタイ支援

2006年から「アブラハムの会」を開催しています。日頃学校に来る機会の少ないお父様方を対象にした講演会と懇親会です。今年度は7月に同志社女子大学准教授の関口英里先生（アンナ・リベカ組）に来て頂きました。

先生は、六浦小学校から六浦中高に進み、立教大学からペンシルバニア州立大学大学院、大阪大学大学院で修士号・言語文化学博士号を取得しました。専門は日米消費文化学・メディア文化論です。1月には東京歯科大学副学長の薬師寺仁先生（第1回イサク組）にお願いいたしました。先生は、六浦小学校から六浦中高に進み、東京歯科大学大学院を修



「外務省国際協力局長賞」受賞写真

了され歯学博士を取得されました。専門は、小児歯科学です。これからも卒業生をお呼びして講演会を開きたいと考えています。

夏休みに「第6回タイ訪問団」がティワタ村を訪問しました。本校の支援活動も14年目になりました。03年に女子寮、06年には「関東学院サードスライニングセンター」を寄贈することができました。今回は教師3名と4年生の坂庭翠さんとお母様、鈴木伊織君とご家族、卒業生の野澤さんご一家も参加しました。ティワタ村までは、チェンマイから車で6時間かかります。途中の町でカレーの材料を買いました。ジャガイモ、たまねぎ、人参、豚肉10kgなどです。毎回私たちは、日本からカレーのルーを持参し、寮の子どもたちにもカレーライスを食べてもらっています。子どもたちは、辛いのが好きなので辛いルーをたくさん買います。寮に到着すると、すぐにみんなでカレーライスを作りました。お肉のた



くさん入ったカレーは、大好評でした。寮の子どもたちの1日は、朝の礼拝から始まります。5時半に起床して6時から食堂で礼拝が始まります。外はまだ薄暗いです。礼拝が終ると全員で寮の掃除をします。低学年の子どもたちは、部屋の掃除と外のごみ拾いをします。中学生は、畑で農作業をします。そして朝食です。お祈りをして、ご飯と野菜の入ったスープを食べます。小さい子もたくさん食べます。子どもたちは、ご飯を持って学校に行きます。お弁当箱のない子は、インスタントラーメンの空き袋に入れていきます。学校では、おかずが一品だけ出ます。学校が終わり寮に帰ると、宿題をやる子、サッカーやフットサルで遊ぶ子など自由に過ごします。夕食の前に水浴びをします。ここには、お風呂もシャワーもありません。私たちもトイレで水浴びをしました。夜の8時から礼拝があります。そして10時に就寝です。寮での生活は、お祈りで始まりお祈りで終りま



もありません。私たちもトイレで水浴びをしました。夜の8時から礼拝があります。そして10時に就寝です。寮での生活は、お祈りで始まりお祈りで終りま

す。礼拝の後、食堂で中学3年生が話しかけてきました。男の子3人は「六浦小学校のおかげで中学3年まで勉強することができました。僕たちは、家が貧しくて寮費（1ヶ月350円）を払うことができません。両親は小学校を卒業したら村に帰るようにと言いました。でも勉強したいので寮長のジャトウ先生に相談しました。先生は、六浦小学校からの献金があるから大丈夫ですと言いました。本当に感謝しています。ありがとうございます。」と言ってくれました。私は胸が熱くなるのを感じました。

昨年度、本校のタイ支援活動を編集したDVDが外務省主催「第三回開発教育／国際理解教育コンクール」で入選しました。今年、写真が「外務省国際協力局長賞」を受賞しました。撮影場所は山奥のシブレ村の寮です。子どもたちは、ご飯に具のないスープをかけて食べていました。食料がなくなると、みんなで野草を探してきて食べるそうです。私たちは、昨年12月に毛布100枚をこの寮に届けました。この活動を「テレビ大阪」の「石橋勝のボランティア21」という番組で取り上げてくださり、BSジャパンや地方局24局で放送されました。

### Kanto Gakuin Mutsuura Elementary School

The "Abraham Meeting," a social gathering for fathers of students of Kanto Gakuin Mutsuura Elementary School where a prominent figure who was a student of Kanto Gakuin is invited to give a lecture, has been held since 2006.

"The Sixth Visiting Group to Thailand" visited Tiwata Village in Chiang Mai during the last summer vacation as a series of support activities, which started 14 years ago. Last year, a DVD on support activities in Thailand by Mutsuura Elementary School won a prize in the "Third Development Education and International Education Contest" sponsored by the Japanese Ministry of Foreign Affairs. This year, photographs of the Sipure Village Dormitory deep in the mountains of Thailand received the "Ministry of Foreign Affairs' International Cooperation Bureau Director General's Award." When we donated 100 blankets to the dormitory, it was broadcast on the program "Ishibashi Masaru Volunteer 21" on TV Osaka.

**Kanto Gakuin Mutsuura Kindergarten**  
Mutsuura Kindergarten holds an annual one-day event where children of the five-year-old class open various shops for children of the three- and four-year-old classes. Planning from the exterior design of the shops to the shops' contents are all done by the five-year-old children. In the recent event, there were a variety of shops, including a haunted house, cake shop, amaze, fishing, and bowling. Older children worked very hard to help younger children enjoy the day. This was very heartwarming to see.

## 六浦幼稚園

主任  
鈴木直江

### 年長組さん ありがとう 楽しかったな お店屋さん

毎年、年長組の子ども達が年少・年中組の子ども達を楽しませようと自分たちで企画し、お店やさんを開いてくれる日があります。普段もお店やさんごっこはしていますが、この日は特別で二階の年長組の保育室が全部お店になります。また年長組の子ども達が、お店の外装から品物まで仲間で話し合って考え必要なものを作ります。年少・年中組の子ども達が喜ぶことは何か相談し、それを作るために工夫している姿は頼もしく微笑ましく



お化け屋敷を出たら、景品がもらえるよ!

一人ひとりの成長を感じました。お店屋さん当日は、お化け屋敷・ケーキ屋さん・迷路



開店!魚つり屋さん

ゲーム・くじ引きやさん・ポケモンやさん・ボールゲーム・魚つり・ボウリングなど楽しいお店があふれていました。前日にお店やさんの事を知らされてある年少・年中組の子ども達は、自分たちでお金を作りお店やさんが開店するのを楽しみに待っています。いよいよ、開店!いつもと違う雰囲気を感じてドキドキする子ども達も自分の行きたいお店を指して行く子・先生の手をしっかり握っている子など様々な表情のお客さんたちがやってくると、年長組の子ども達は「いらっしやい!」「何がいいですか?」と笑顔で迎えてくれました。そして、やり方がわからなくて困っている子には教えてあげたり一緒にいったり、少しおまけしてあげたりと年少・年中組の子ども達のことを本当によく考えていました。自然に生まれてくる優しさにたくさん出会ったことができました。

くじ引きのお花屋さん



ゲーム・くじ引きやさん・ポケモン

**Kanto Gakuin Noba Kindergarten**  
On Thanksgiving Day last fall, children picked ripe and ready-to-eat persimmons, both sweet and sour, to make dried persimmons. They also baked sweet and white potatoes over a fire. Children in the five-year-old class roasted wieners, too. There was also a workshop for five-year-old children and their parents who jointly made a large dome and animals using 20,000 pieces of Kapla plank.

## 野庭幼稚園

主事  
小高千恵

### 遊びの中にみる未来



みんなで干し柿にチャレンジ

園庭にはみかん・ざくろ・柿の木があり、収穫感謝礼拝前後に食べ頃となりまです。遊びが一区切りした子ども達から、「ざくろを取ってもらった食べよう」と声が上がりが皆で分けていただきます。柿は1本の木で甘柿と渋柿の両方が取れるので、今年は干し柿にもチャレンジしてみました。百個近くをのれんの様に吊るし、待つこと1ヶ月。甘くなった柿を陽だまりの中でいただき、「幼稚園の味がする」との感想に笑いの渦が起きます。火をくべての焼き芋や焼きじやが芋も楽しいものでした。年長児はウインナーを焼いてミニバーベキューを経験しました。先の尖った串

にウインナーを刺す作業は危険が伴います。力の入れ具合、右手と左手のバランスなど自分なりに工夫をしていました。好みの加減で味わい深い焼き上がりに満足そうでした。年長児の保育参加は2万ピースのカプラを使ってのワークショップ。大きなドームや動物がダイナミックに作られていく作業では、子どもよりも大人のほうが真剣でした。相手を思いやりながら使いたいピースを譲ったり、崩れてしまった時の赦し合い、出来上がったときの喜び合いは共同作業ならではの経験です。世界の平和をつくるていく、この子ども達の未来を垣間見る思いが致しました。



ウインナーを焼いてミニバーベキュー

世界の平和をつくるていく、この子ども達の未来を垣間見る思いが致しました。



2万ピースのカプラでドーム作り



# 生涯学習センター報告

The number of open-college courses has been increasing (from 45 in the 2004-2005 school year to 74 in the 2007-2008 school year), and the total number of those attending our courses has increased as well. We would like to expand our operation by working hard to offer more attractive courses. The ratio of joint courses with various organizations in the public and private sectors, NPO's and NGO's has also been increasing (from 6.7% in the 2004-2005 school year to 23% in the 2007-2008 school year). We would like to increase this ratio to 30%. We appreciate your cooperation and would like to request your continuous patronage.

今回は、公開講座について、その全体像と学外との連携について、ここ数年を振り返り、今後の目標について、報告します。

講座数、及び受講者数は順調に増加しており(2004年度:45講座から2007年度:74講座)、講座毎の平均受講者数は、2005年度から40人弱で落ち着いています。全体的な傾向としては、講座数の増加に伴って受講者総数も増加しているため、この推移は健全と言えるでしょう。ただし、極端に集客力の低い講座については、洗い出し、再検討を加える必要があります。したがって、極端に集客力の低い講座の洗い出し、再検討を行いながら、事業の拡大を目指してゆきたいと考えます。

学外との連携講座の割合は、2004年度(約6.7%)よりも増加していますが(2007年度:約23%)、常時3割を超えるレベルには達していません。今後も、当センター、各講座のコーディネーターによる積極的な働きかけを行い、3割を目指します。



味深い朗読会となりました。

今回は、詩人二人による対談形式の朗読会でしたので、自作の詩を読み合われました。詩が読まれたあと、相手の詩人がその詩の感想を述べること



ポエトリ・リーディング講座(第3回)  
谷川俊太郎さんと小池昌代さん

2007年12月1日(土) KGU 関内メディアセンターで行われた公開講座「ポエトリ・リーディング」第3回は、谷川俊太郎さんと小池昌代さんの人気で大入り満員となりました。

## 編集後記

学報No.35をお届けいたします。いかがでしたか。横濱開港150周年の年となる2009年は、国際都市横浜にとつて意義深い年となります。そして同年前身の横浜バプテスト神学校が創設された1884年から数えて125周年を迎える関東学院にとつても重要な年となります。そのため本学院は、2005年度に創立125周年記念事業委員会を設置し、以来、学院史編纂、募金事業および社会貢献・国際交流等の記念事業に取り組んで参りました。

この学報においても2005年度から創立125周年ロゴデザインを掲載し、記念事業計画、各種の事業を掲載して参りました。そして記念特集として前号から新連載企画「三世代が関東学院に学ぶ」を開始しました。

今後も皆様に「ご愛読いただける誌面づくりを目指します。ご意見ご感想をお寄せいただければ幸いです。(総務部広報課)

学院や学報についてのご意見やご感想をお寄せください。

宛先 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1 関東学院 法人事務局広報課 電話: 045 (786) 7006 E-mail: kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

## ■春学期開講講座一覧

実施場所	講座名
八景キャンパス	「韓国語初級II」
八景キャンパス	「韓国語中級」
八景キャンパス	「フランス語会話中級」
八景キャンパス	「やさしいパソコン講座」
八景キャンパス	「ラッピングコーディネーター」
八景キャンパス(室の木)	「陶芸教室I」
八景キャンパス	「中国語初級II」
八景キャンパス	「中国語中級」
杉田ゴルフ場	「健康スポーツ講座ゴルフ」
八景キャンパス	「ライフプランセミナー」
八景キャンパス	「港都横浜の文化論」
八景キャンパス	「暮らしの中の色彩講座」
八景キャンパス	「子育てセミナー」
八景キャンパス(室の木)	「鎌倉彫教室入門」
八景キャンパス	「コンサートシリーズ第10回」記念公演
八景キャンパス	「日本の文化(大学で寄席を)」
八景キャンパス(室の木)	「保育実践講座」
八景キャンパス	「楽しい人生の処方箋5」
八景キャンパス(室の木)	「親子陶芸教室」
文庫キャンパス	「英会話」
関内メディアセンター	「哲学7」
関内メディアセンター	「アシスタント・ホスピタリティ・コーディネータ」
関内メディアセンター	「やさしいパソコン講座」
関内メディアセンター	「韓国語入門」
関内メディアセンター	「ラッピングコーディネーター」
関内メディアセンター	「ポエトリ・リーディング4」
関内メディアセンター	「実用パソコン講座I」
関内メディアセンター	「平和について語る3」
小田原キャンパス	「健康スポーツ講座高齢者の健康と運動」

春学期 合計29講座

実施場所	講座名
八景 文庫 小田原	秘書技能検定2級試験対策講座
八景	旅行業務取扱管理者試験対策講座
八景	インテリアコーディネーター試験対策講座(1次)
八景	インテリアコーディネーター試験対策講座(2次)
八景	宅地建物取引主任者試験対策講座
八景	TOEIC試験対策講座
八景	ホームヘルパー2級養成講座
八景	3級ファイナンシャルプランニング試験対策講座
八景	初級システムアドミニストレータ試験対策講座
八景	公務員試験対策講座(春学期)
八景	日商販売士2級検定試験対策講座
八景	マイクロソフトオフィススペシャリスト試験対策講座
八景	日商簿記2級検定試験対策講座
八景	日商簿記3級検定試験対策講座
八景	秘書技能検定準1級試験対策講座
八景	福祉住環境コーディネーター3級検定試験対策講座
八景	カラーコーディネーター3級検定試験対策講座
八景	ビジネス能力検定2級試験対策講座
八景(室の木)	公務員(栄養士・保育職)試験対策講座
八景	2級建築士試験対策講座
八景	教員試験対策講座
八景	公務員試験対策講座(秋学期)

資格講座枠 22講座



六浦中学校	小学校	六浦小学校	六浦幼稚園	野庭幼稚園
5(土) 入学式 7(月) 1年生ガイダンス 8(火) 始業式 17(木) 生徒健康診断 21(月) 生徒会演説会・選挙	5(土) 入学式 7(月) 始業式・オリエンテーション 8(火) 身体測定 11(金) イースター礼拝 25(金) 1年生遠足	7(月) 始業式 8(火) 入学式 9(水) 身体測定 16(水) イースター礼拝 18(金) 1年生安全教室 22(火) 防犯教室 23(水) 心電図検診(1・5年) 方面別集会 25(金) 避難訓練 26(土) 授業参観、しおん会総会、ホームカミングデー	7(月) 進級式 9(水) 入園式 11(金) クラス打ち合わせ会 14(月) ろばの子会(預かり保育)開始 14(月)～17(木) 個人面談 18(金) おりぶ会(保護者会)総会 22(火)・24(木) 教育相談 23(水) 誕生会	8(火) 入園式(AM)・進級式(PM) 9(水)～11(金) 保護者連絡会 11(金) イースター礼拝 14(月)～18(金) 個人面談(年少・年中) 21(月) わかば会(保護者会)総会 24(木)・25(金) 身体測定 30(水) 誕生会
1(木) 生徒会総会 7(水)～10(土) 2年生自然教室 14(水)～17(土) 1年生オリエンテーション 23(金) ペンテコステ礼拝	2(金) 全校遠足 9(金) 母の日礼拝 20(火) 漢字計算テスト 23(金) ペンテコステ礼拝 28(水) 内科検診 31(土) 親子の集い	7(水) 1年生歓迎遠足 9(金) 母の日礼拝 13(火) 校内見学会1 31(土) 運動会	7(水) なかよし会 1年生同窓会 9(金) 母の日礼拝 8(木)・13(火)・15(木)・20(火)・27(火)・29(木) 教育相談 14(水) 誕生会 14(水)・28(水) バイブルクラス 17(土) 子育て講演会 22(木) 春の遠足	8(木) 内科検診 9(金) 家族の日礼拝 16(金) 親子遠足 19(月) わかば会(講演会) 21(水) 誕生会 22(木) 歯科検診 24(土) 1年生同窓会 26(月) バイブルクラス 28(水) 座談会(4・5月) 29(木) 避難訓練
3(火)・4(水) 中間試験 4(水) ボランティア活動 7(土) 漢字検定 11(水) 春季特別伝道礼拝(花の日) 12(木) 眼科検診 14(土) 英語検定 20(金) 芸術鑑賞会 21(土) 数学検定 28(土) オープンキャンパス	6(金) 花の日礼拝 7(土) 学校説明会 12(木) 春の屋内なかよし会 13(金) 漢字検定 18(水) 学力テスト	4(水) 防犯訓練 11(水) 院内学校説明会 13(金) 花の日礼拝 20(金) 学校説明会1 24(火) 校内見学会2 25(水) 救助訓練 30(月) 水泳開始	3(火)・4(水)・6(金) 身体測定 5(木) 歯科検診 10(火) 花の日礼拝 10(火)・12(木)・19(木)・24(火)・26(木) 教育相談 11(水)・25(水) バイブルクラス 12(木) 内科検診 13(金) 年長組クラス懇談会 17(火) 年少組クラス懇談会 18(水) 誕生会 20(金) 避難訓練 年中組クラス懇談会 28(土) ハザー	6(金) 年長保育参加 9(月) わかば会 9(月)～13(金) 年長個人面談 11(水) ひとみ座① 12(木)・13(金) 花の日礼拝・訪問 21(土) プレイデー(おうちの方と遊ぼう) 25(水) 誕生会 30(月) バイブルクラス
9(水)～11(金) 期末試験 15(火) 球技大会 16(水) 答合せ 19(土) ボランティア活動 終業式 29(火)～8/13(水) 海外研修	1(火)～2(水) 1年緑の学校 7(月)～8(火) 2年緑の学校 10(木)～12(土) 5・6年緑の学校 14(月)～16(水) 3・4年緑の学校 18(金) 終業式 24(木)～31(木) 6年補習	1(火)～4(金) 自然学校(6年生・清里) 2(水)～4(金) 自然学校(4年生・軽井沢) 3(木)～4(金) 自然学校(1年生・箱根) 8(火)～11(金) 自然学校(5年生・那須) 9(水)～11(金) 自然学校(3年生・伊豆) 10(木)～11(金) 自然学校(2年生・御殿場) 12(土) アブラハムの会 17(木) 校内見学会3 19(土) 夏のタベ 22(火) 授業終了日 23(水)～26(土) 夏休み・水泳指導	1(火)・3(木)・8(火)・10(木) 教育相談 2(水) 子育て講演会 7(月)～11(金) 個人面談 9(水) 7月誕生会 16(水) 8月誕生会 18(金) 1学期終了 21(月)～22(火) 年長組お泊り会	2(水) 誕生会 7(月) わかば会 9(水) 誕生会 14(月) バイブルクラス 16(水) 座談会(6・7月) 17(木) 終業式 18(金)・19(土) 年長児お泊り会 23(水)～8/29(金) 夏期シャローム(預り保育)
2(土)～5(火) ボランティアキャンプ 6(水)～9(土) サマーキャンプ	1(金) 6年補習 26(火)～28(木) プール開放・6年補習	15(金)～22(金) 第7回タイ訪問団	11(金)～22(金) ろばの子会(預かり保育)	7(木)・21(木)・28(木) プール・園庭開放 26(火) 夏のタベ
1(月) 始業式 9(火)～12(金) 中3研修旅行 12(金) 1年生美術研修 24(水) 1年生・2年生社会見学 27(土) 学校説明会	1(月) 始業式 2(火)～12(金) 夏休み作品展 6(土) 院内入試・学校説明会 8(月) 学力テスト 26(金) 神奈川県私立小学校音楽会	1(月) 授業開始・避難訓練 6(土) 学校説明会2 13(土) 院内入試 19(金) 校内見学会4 24(水) 前期終業式 24(水)～26(金) 個人面談 26(金) 神奈川県私立小学校音楽会	4(木) 2学期始まり 5(金) 総合避難訓練 8(月) 2学期ろばの子会(預かり保育)開始 8(月)・9(火)・11(木) 身体測定 9(火)・11(木)・16(火)・18(木)・30(火) 教育相談 10(水) 子育て講演会 10(水)・17(水) バイブルクラス 17(水) 誕生会 20(土) うんどう会	5(金) 始業式・防災引取訓練 8(月) わかば会 8(月)・9(火) 身体測定 10(水) 誕生会 17(水) 座談会(8・9月) 22(月) バイブルクラス 27(土) 運動会

# 主な学校行事予定(4月～9月)

	大学	高等学校	六浦高等学校	中学校
4	3/31(月)～4/5(土) オリエンテーション(学部) 1(火)～5(土) 履修指導(大学院) 1(火)～5(土) オリエンテーション (法科大学院) 2(水) 入学式 7(月) 春学期授業開始 9(水)・10(木) オリエンテーション(休講)	7(月) 始業式 9(水) 高校全体香柏会 12(土) 高校イースター礼拝 香柏会総会 香柏会全体委員会 15(火) 高校県下一斉テスト 17(木) 高校生徒会役員選挙 19(土) 高校総体開会式 25(金) 全校健康診断	8(火) 始業式 17(木) 健康診断 21(月) 生徒会演説会・選挙	5(土) 入学式 7(月) 始業式 中学全体香柏会 中1オリエンテーション 11(金) 中学イースター礼拝 12(土) 香柏会総会 香柏会全体委員会 15(火) 中学学力テスト 25(金) 全校健康診断 中学生徒総会
5	2(金) 金曜日の授業日数調整のため休講	9(金) 高校母の日礼拝 17(土) 香柏会スポーツ大会 20(火)～23(金) 中間試験	1(木) 生徒会総会 13(火)～17(土) 高2研修旅行 13(火) 高3卒業写真撮影 14(水) 高1薬物乱用防止教室 14(水)・16(金) 高3三者面談 16(金) 高1一日研修会 23(金) ペンテコス礼拝	8(木) 中学母の日礼拝 17(土) 香柏会スポーツ大会 20(火)～23(金) 中間試験 21(水) 中1保護者対象クラブ活動 説明会 23(金) 中学生徒理解調査
6	1(日) 創造祭 9(月) 学生自治会定期総会	2(月)～5(木) 高2研修旅行 2(月)～4(水) 高1修養会・高3修養会 12(木) 高校花の日礼拝	2(月)～4(水) 中間試験 4(水) ボランティア活動 7(土) 漢字検定 11(水) 春季特別伝道礼拝(花の日) 12(木) 眼科検診 14(土) 英語検定 19(木) ダンス発表会(高3) 20(金) 芸術鑑賞会 21(土) 数学検定	3(火)～5(木) 中2研修旅行 中3研修旅行 4(水)～6(金) 中1修養会 11(水) 中学花の日礼拝 18(水) 中2歌舞伎鑑賞(午後) 21(土) オープンキャンパス(第1回)
7	[学部・法科大学院] 22(火) 春学期授業終了 23(水)～29(火) 補講及び春学期定期試験 30(水)～8/5(火) 春学期定期試験 27(日) 定期試験予備日 [大学院] 29(火) 春学期授業終了 30(水)～8/5(火) 補講期間	7(月)～10(木) 期末試験 14(月) 答案返却日 21(月) 夏期休業開始	8(火)～11(金) 期末試験(高1・2) 9(水)～11(金) 期末試験(高3) 14(月) 球技大会 16(水) 答合せ 19(土) ボランティア活動 終業式 29(火)～8/13(水) 海外研修	7(月)～10(木) 期末試験 14(月) 答案返却日 19(土) 平和祈願礼拝 21(月) 夏期休業開始 22(火)～25(金) 希望制夏期講習(前期) 指名制夏期講習(前期)
8	[学部・法科大学院] 7/30(水)～8/5(火) 春学期定期試験 3(日) 定期試験予備日 6(水) 定期試験予備日 夏期休業開始 6(水)～15(金) 夏期集中講義期間 (但し、土・日曜日は除く) [大学院] 7/30(水)～8/5(火) 補講期間 8/6(水) 夏期休業開始	15(金)～21(木) ハワイ島理科研修	2(土)～5(火) ボランティアキャンプ 6(水)～9(土) サマーキャンプ 29(金) 模試	26(火)～29(金) 希望制夏期講習(後期) 指名制夏期講習(後期)
9	18(木)～20(土) 秋学期オリエンテーション(学部) 20(土) 春学期卒業式・学位授与式 22(月) 秋学期授業開始	1(月) 教職員修養会 5(金) 二学期授業開始 高1スタディサポート 11(木) 高校人権を考える礼拝	1(月) 始業式	1(月) 教職員修養会 5(金) 二学期授業開始 10(水) 中学人権を考える礼拝 20(土) オープンキャンパス(第2回)

## Main Annual School Events (from April, 2008 to September, 2008)

Kanto Gakuin University, Kanto Gakuin Senior High School, Kanto Gakuin Mitsuura Senior High School, Kanto Gakuin Junior High School, Kanto Gakuin Mitsuura Junior High School, Kanto Gakuin Elementary School, Kanto Gakuin Mitsuura Elementary School, Kanto Gakuin Mitsuura Kindergarden and Kanto Gakuin Noba Kindergarden.





テニスコート側から見上げる関東学院中学校新館（三春台校地）

## 関東学院大学

### ●金沢八景キャンパス

経済学部  
工学部  
人間環境学部  
大学院（経済学研究科・工学研究科）  
法科大学院

### ●金沢文庫キャンパス

文学部  
大学院（文学研究科）

### ●小田原キャンパス

法学部  
大学院（法学研究科）

☎045-781-2001(代)

☎045-781-2001

☎045-786-7179

☎0465-34-2211

## 関東学院中学校高等学校

☎045-231-1001

## 関東学院小学校

☎045-241-2634

## 関東学院六浦中学校高等学校

☎045-781-2525

## 関東学院六浦小学校

☎045-701-8285

## 関東学院六浦幼稚園

☎045-781-0170

## 関東学院野庭幼稚園

☎045-845-0876

学校法人

# 関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

法人事務局 ☎045-786-7028 (代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

環境に配慮して



この印刷物は大豆インキを使用しています。

古紙配合再生紙を  
使用しています